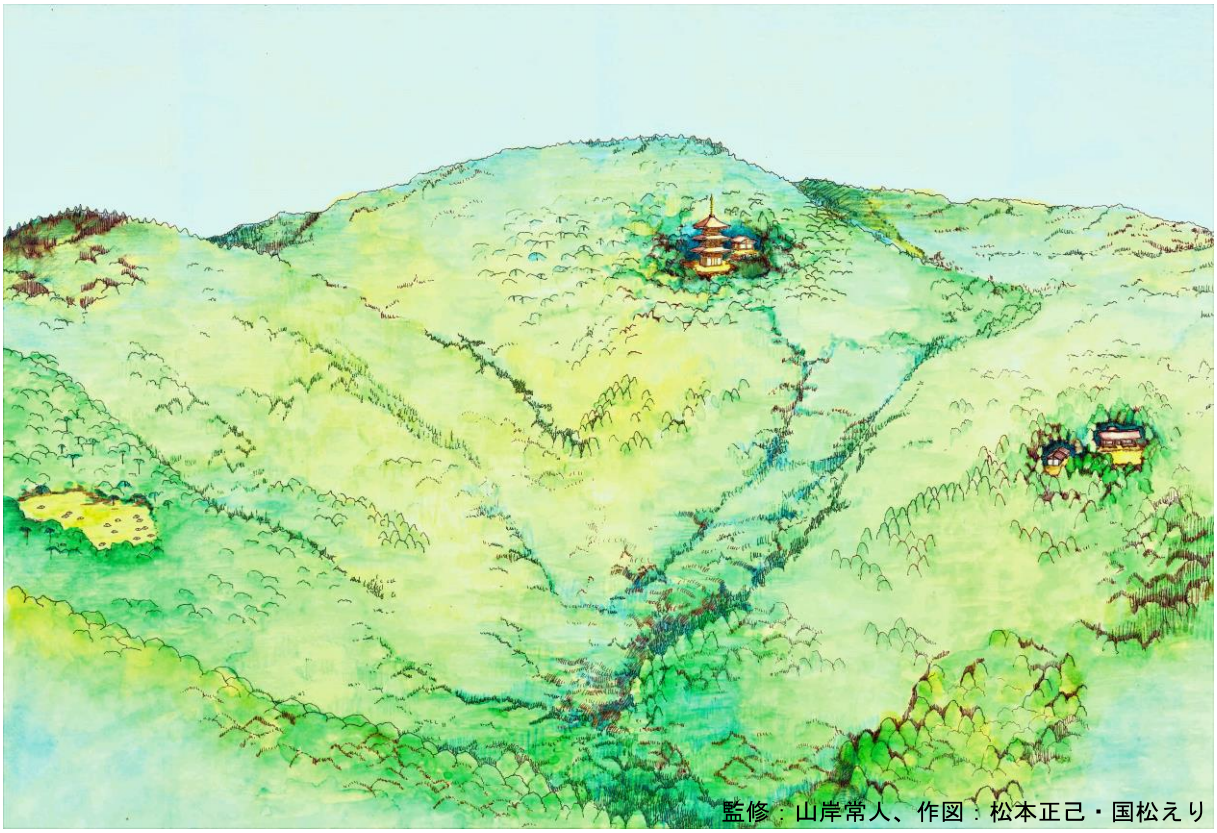
史跡

中寺廃寺跡

保存整備基本計画



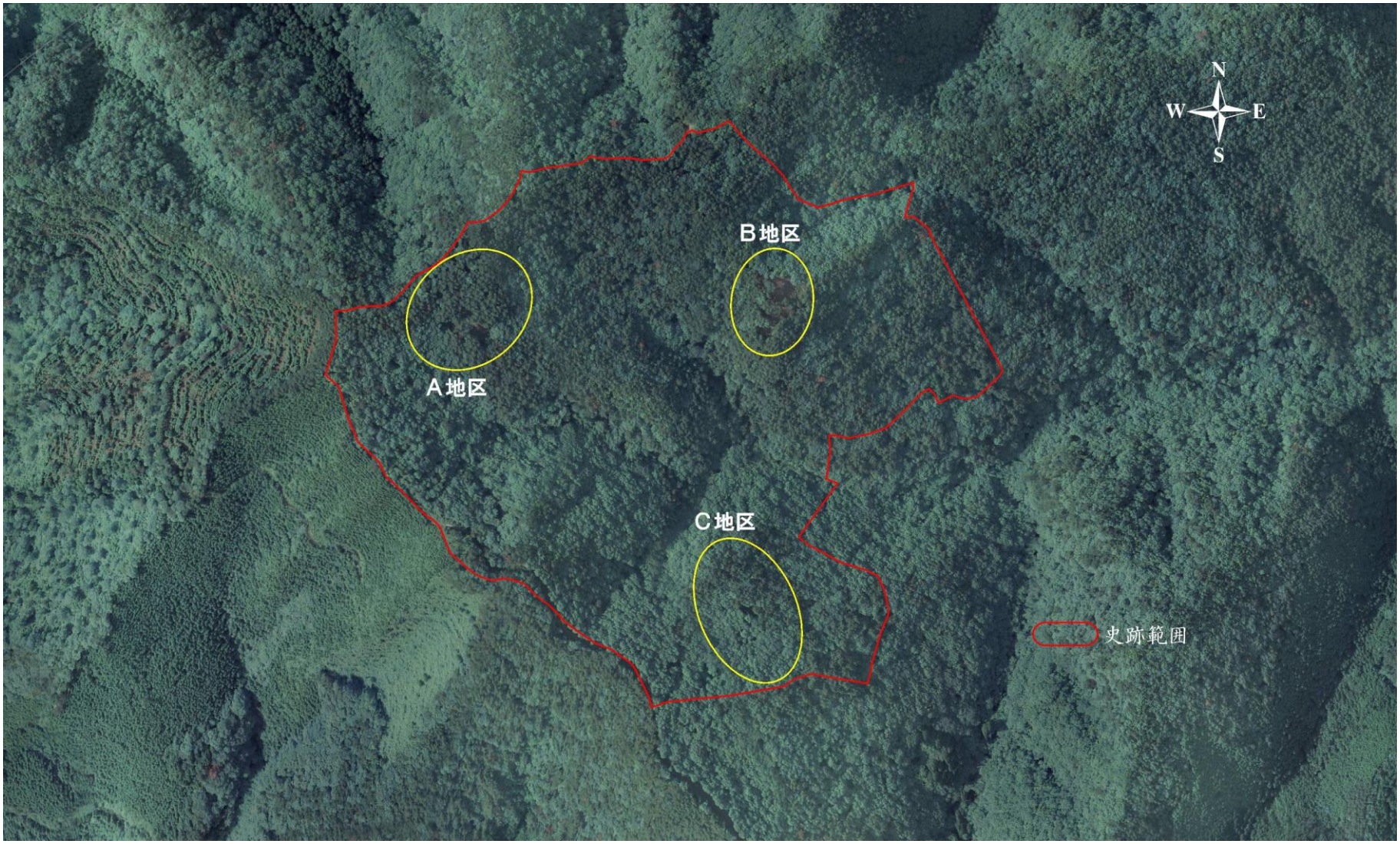
2010年３月

まんのう町教育委員会

史跡中寺廃寺跡 全景（東より）

Ｂ地区第１テラスより大川山頂を望む

題字　金澤 正親 氏



史跡中寺廃寺跡 航空写真

あ　い　さ　つ

まんのう町教育委員会では、本町の造田にある大川山（標高 1042.9m）の西尾根、標高 600～700mの辺りに広がる古代の山林寺院跡である「中寺廃寺跡」の発掘調査を行っております。

昭和 59 年の発掘調査で塔跡を確認し、塔心礎石下から鎮壇具として納められた 10 世紀前半の壺などが見つかりました。平成 16 年から平成 19 年の発掘調査で、「中寺廃寺跡」はＡ～Ｃ地区の約１㎞の範囲にそれぞれ主要な建物や石組が造られていることが分かり、中心地区であるＡ地区では仏堂跡や塔跡が規則的に造られていることが分かりました。

これらの遺構より、８世紀後半から 12 世紀の遺物が出土しました。

平成20年３月28日に、「中寺廃寺跡」は古代山林寺院として全国的に貴重な遺跡であるとして、国指定史跡となりました。

平成 21 年度はＢ地区の第３テラスの発掘調査を継続するとともに、史跡中寺廃寺跡整備検討委員会の丹羽佑一委員長様をはじめ委員の皆様、香川県教育委員会事務局生涯学習・文化財課文化財専門員の森 格也様のご指導を得ながら、史跡の保存整備基本計画の策定に取り組みました。

史跡中寺廃寺跡が山岳修行の地であることから、建物等の復元、車道の開設は行わず、ここを訪れることにより、山奥深い大自然の中で往時の修行僧が身を置いた非日常的な環境を体感し、日々の生活に追われる現代人が人間本来のあるべき姿を回復することができる場となることを目的として整備することにしました。

そして、このたび、史跡中寺廃寺跡保存整備基本計画を発行する運びとなりました。本報告書が、古代山林寺院の研究の資料として広く活用されますとともに、文化財に対する理解と関心が深められることになれば幸いです。

最後になりましたが、本発掘調査及び保存整備に格別のご指導とご協力をいただいております関係の皆様方に心から深く感謝申し上げますとともに、今後ともよろしくご支援賜りますようお願い申し上げ、ごあいさつとさせていただきます。

平成 22 年３月

まんのう町教育委員会

教育長　北　山　正　道

例　　言

１．　本書は、香川県仲多度郡まんのう町造田 3469-2 他に所在する史跡中寺廃寺跡の保存整備基本計画を策定した報告書である。

２．　本計画の策定は、まんのう町教育委員会が委託した「史跡中寺廃寺跡整備検討委員会」及び香川県教育委員会生涯学習・文化財課の指導のもと、まんのう町教育委員会が実施した。

３．　史跡中寺廃寺跡整備検討委員会の委員、および指導機関と事務局の職員は以下のとおりである。

委員長	丹羽佑一	香川大学経済学部地域社会システム学科社会と文化考古学教授
委　員	上原真人	京都大学大学院文学研究科歴史文化学系考古学教授
	山岸常人	京都大学大学院工学研究科建築学専攻建築史講座准教授
	平澤　毅	奈良文化財研究所文化遺産部遺跡整備研究室長
	鈴木信男	まんのう町文化財保護審議会会長
	栗田隆義	まんのう町長
	北山正道	まんのう町教育委員会教育長
指　導	森　格也	香川県教育委員会事務局生涯学習・文化財課主任文化財専門員
事務局	田岡一道	まんのう町教育委員会社会教育課長
	雨霧　弘	まんのう町教育委員会社会教育課中寺廃寺発掘調査室課長補佐
	中村文枝	まんのう町教育委員会社会教育課中寺廃寺発掘調査室嘱託職員

４．　本書は、まんのう町教育委員会が、原案を立案し、史跡中寺廃寺跡整備検討委員会で内容を審議した後、編集したものである。

５．　本計画の策定に係る事務は、まんのう町教育委員会 社会教育課 中寺廃寺発掘調査室が行った。

目　　　　　次

基本計画の策定にあたり・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

１．策定の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

２．史跡活用の実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

３．本計画書の構成について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

Ⅰ．広域的な観点からの検討・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

１．史跡中寺廃寺跡の周辺地域の文化財の概況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

（１）自然的環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

（２）社会的環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15

（３）民俗的環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16

（４）歴史的環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20

２．まんのう町における文化財及び公的施設等の観点からの史跡中寺廃寺跡の位置づけ・・・ 29

（１）まんのう町総合計画からの位置づけ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29

（２）文化の面からの位置づけ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30

（３）公的施設等の面からの位置づけ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・33

（４）文化財の面からの位置づけ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・33

（５）周辺地域からのアプローチ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・34

（６）史跡中寺廃寺跡の保護施策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・40

（７）まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・43

Ⅱ．史跡指定地及びその周辺(近接地)に関する検討・・・・・・・・・・・・・・・・・44

１．史跡中寺廃寺跡の遺跡としての構成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 44

２．史跡中寺廃寺跡の整備における理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 49

３．整備事業の基本方針と実現のための必要な事項・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50

（１）基本方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・50

（２）基本方針の実現のために必要な事項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・50

（３）実施のための検討課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・51

４．史跡中寺廃寺跡の整備事業における《ゾーニング》とそれを結ぶ《基幹動線》・・・・・52

５．整備事業において具体的に機能する施設配置の検討・・・・・・・・・・・・・・・ 54

（１）史跡指定範囲内について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・54

（２）史跡指定範囲外について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・57

Ⅲ．事業スケジュール等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・59

１．史跡整備スケジュール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 59

２．管理・運営体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 60

基本計画の策定にあたり

１．策定の目的

中寺廃寺跡は、香川県仲多度郡まんのう町にある大川山（標高 1042.9m）の西尾根、標高約 700 mの辺りに広がる古代山林寺院跡である。

昭和 59 年の発掘調査で塔跡を確認した。塔心礎石下からは、讃岐国府との関係が想定されている十瓶山窯跡群特注品の壺など、10 世紀前半の遺物が出土した。これらは、中央に長胴甕を据え、その周りに壺５個を配置した状態で出土したことから、地鎮・鎮壇具として埋納されたと考えられる。平成 16 年から平成 19 年にかけて中寺廃寺跡調査・整備委員会を組織し、長期計画に基づいた本格的な調査を行った。その結果、中寺廃寺跡は約１㎞の範囲に点在する平坦地に、建物や石組が規則的に造られた寺院跡であることを確認した。これらの遺構からは８世紀後半から 12 世紀の遺物が出土し、平安時代を中心として盛行したことが分かった。中心地区では仏堂跡と塔跡が讃岐国分寺に似ている配置をとることが分かり、十瓶山窯跡群特注品の壺とともに、造営・経営に讃岐国府が関与したことが示唆されている。

古代寺院は、平地に立地するものが一般的であったが、平安時代になると比叡山延暦寺や高野山金剛峰寺などが営まれたように山林寺院が造営された。中寺廃寺跡の調査からみると、古代山林寺院の展開は地方においても広く見られるものと考えられる。このように平安仏教の地方における展開を知るうえで重要な遺跡であるとして平成 20 年３月 28 日に国史跡に指定された。

国史跡指定を機にまんのう町の貴重な財産として保存整備・活用を図ることへの機運が町民の中から一気に高まってきた。これを受けて町では平成 20 年度から各分野の専門家による中寺廃寺跡整備検討委員会を発足させ、自然環境と調和した整備に向けての検討を進めてきた。この検討結果に基づき、保存整備・活用を実現するため史跡中寺廃寺跡の保存整備計画を策定するものである。

本保存整備計画は、これまで行った分布調査や発掘調査成果を踏まえて策定するが、今後、史跡指定地外や未調査地における新たな成果も視野に入れるものとする。

２．史跡活用の実績

これまでに町民は元より、町外の方々にも、貴重な史跡の存在を認識していただくべく、数々の普及・啓発活動を計画し実施してきた。

また、見学・講演の依頼にも積極的に対応し、より多くの方々に中寺廃寺跡を楽しみながら理解していただけるよう取り組んできた。琴南（ことなみ）ふるさと資料館では調査成果を常設展示し、随時、見学者を受け入れている。

主な企画の回数は、平成 16 年に本格的な中寺廃寺跡発掘調査が始まって以来 37 回、参加延べ人数は約 500 人を数える。

主な企画の概要			
種類	主催	ところ	概要
現地見学	外部団体	現地	中寺廃寺跡についての説明、植物や生物についての紹介
現地講義	大学	現地	中寺廃寺跡についての説明
遠足	町立小・中学校	現地	中寺廃寺跡についての説明、植物や生物についての紹介
教員研修	町立小・中学校・県内高校教員	現地・学校・琴南ふるさと資料館	中寺廃寺跡についての説明、植物や生物についての紹介
文化財保護協会講演	文化財保護協会	まんのう町内各地	発掘調査成果についてパワーポイントを利用した講演
琴南地区文化祭展示	町教育委員会	まんのう町琴南地区	中寺廃寺跡についてのパネルと遺物の展示
まんのう町文化祭展示	町教育委員会	まんのう町内各地	中寺廃寺跡についてのパネルと遺物の展示
まんのう町役場ロビー展	町教育委員会	まんのう町役場	年度末に発掘調査成果についてパネルと遺物の展示
琴南ふるさと資料館展示	町教育委員会	琴南ふるさと資料館	常設で中寺廃寺跡についてのパネルと遺物の展示
現地説明会	町教育委員会	現地	その年度の発掘調査成果の報告

活動の様子

平成 16 年度

現地説明会

現地説明会

平成 17 年度

琴平町子ども夏休み講座現地見学

現地説明会

平成 18 年度

現地説明会

現地説明会

琴南地区文化祭展示

大川山～中寺廃寺跡ハイキング

平成 19 年度

琴南中学校遠足

発掘調査成果報告会

大川山～中寺廃寺跡ハイキング

まんのう町文化祭展示

平成 20 年度

まんのう町文化財保護協会　記念講演

まんのう町女性大学　文化財講座

まんのう町文化祭展示

琴南ふるさと資料館展示

普及・啓発活動実績

日時順

日時		主催	対象	内容	ところ
平成16年度	10月31日	旧琴南町教育委員会	一般	現地説明会	中寺廃寺跡
	11月26日	琴南中学校	琴南中学校教職員	琴南中学校教職員見学	中寺廃寺跡
	11月20・21日	旧琴南町教育委員会	一般	琴南町文化祭展示	琴南ふるさと資料館
	通年	旧琴南町教育委員会	一般	琴南ふるさと資料館展示	琴南ふるさと資料館
平成17年度	4月22～6月2日	旧琴南町教育委員会	一般	旧琴南町役場ロビー速報展	琴南町役場ロビー
	7月9日	文化財保護協会	文化財保護協会会員	旧琴南町文化財保護協会総会講演	琴南公民館
	8月12日	琴平町教育委員会	琴平町児童	琴平町子ども夏休み講座発掘体験	中寺廃寺跡
	10月10日	旧琴南町教育委員会	一般	現地説明会	中寺廃寺跡
	10月18日	旧仲南町	旧仲南町住民	旧仲南町成人講座見学	中寺廃寺跡
	11月5・6日	旧琴南町教育委員会	一般	旧琴南町文化祭展示	琴南ふるさと資料館
	通年	旧琴南町教育委員会	一般	琴南ふるさと資料館展示	琴南ふるさと資料館
平成18年度	5月23日	文化財保護協会	文化財保護協会会員	まんのう町文化財保護協会仲南支部総会講演	仲南公民館
	5月27日	文化財保護協会	文化財保護協会会員	まんのう町文化財保護協会琴南支部総会講演	琴南公民館
	6月15日	まんのう町	町議会議員	町議会議員視察	中寺廃寺跡
	9月29日	香川大学	香川大学学生	香川大学学生見学	中寺廃寺跡
	10月22日	まんのう町教育委員会	一般	現地説明会	中寺廃寺跡
	11月4・5日	まんのう町教育委員会	一般	まんのう町琴南地区文化祭展示	琴南ふるさと資料館
	11月18・19日	まんのう町教育委員会	一般	まんのう町満濃地区文化祭展示	満濃農村環境改善センター
	12月13日	琴南小学校	琴南小学校6年生	琴南小学校6年生琴南ふるさと資料館見学	琴南ふるさと資料館
	1月10日～26日	まんのう町教育委員会	一般	まんのう町役場ロビー速報展	まんのう町役場ロビー
	3月18日	まんのう町教育委員会	一般	大川山～中寺廃寺跡ハイキング	中寺廃寺跡
	通年	まんのう町教育委員会	一般	琴南ふるさと資料館展示	琴南ふるさと資料館
平成19年度	4月19日	琴南中学校	琴南中学校生徒	琴南中学校遠足	中寺廃寺跡
	6月4日	文化財保護協会	文化財保護協会会員	まんのう町文化財保護協会琴南支部総会講演	琴南公民館
	7月30日	琴南小学校	琴南小学校教職員	琴南小学校教職員見学	中寺廃寺跡
	10月27日	まんのう町教育委員会	一般	現地説明会(雨天のため調査成果報告会)	琴南公民館
	11月3・4日	まんのう町教育委員会	一般	まんのう町琴南地区文化祭展示	琴南ふるさと資料館
	11月17・18日	まんのう町教育委員会	一般	まんのう町文化祭展示	仲南公民館
	11月25日	まんのう町教育委員会	一般	大川山～中寺廃寺跡ハイキング	中寺廃寺跡
	12月11日	琴南小学校	琴南小学校6年生	琴南小学校6年生琴南ふるさと資料館見学	琴南ふるさと資料館
	2月12日	香川県高等学校地歴公民科研究会	高校地歴公民科教職員	香川県高等学校地歴公民科研究会講演	小豆島高校
	通年	まんのう町教育委員会	一般	琴南ふるさと資料館展示	琴南ふるさと資料館
平成20年度	5月18日	文化財保護協会	一般	まんのう町文化財保護協会総会上原真人氏記念講演	まんのう町民文化ホール
	5月25日	仲善シルバー人材センター歴史同好会	登録会員	仲善シルバー人材センター歴史同好会見学	中寺廃寺跡
	7月6日	まんのう町	婦人会会員	まんのう町女性大学講演	まんのう町役場
	8月4日	香川県高等学校地歴公民科研究会	高校地歴公民科教職員	香川県高等学校地歴公民科研究会見学	中寺廃寺跡
	11月1・2日	まんのう町教育委員会	一般	まんのう町琴南地区文化祭展示	琴南ふるさと資料館
	11月22・23日	まんのう町教育委員会	一般	まんのう町文化祭展示	満濃農村環境改善センター
	12月3～12日	まんのう町教育委員会	一般	まんのう町役場ロビー速報展	まんのう町役場ロビー
	12月5日	香川県	香川県自治振興課職員	香川県自治振興課職員琴南ふるさと資料館見学	琴南ふるさと資料館
	通年	まんのう町教育委員会	一般	琴南ふるさと資料館展示	琴南ふるさと資料館

普及・啓発活動実績

対象別

一般・町外

対象	日時		主催	内容	ところ
一般	平成16年度	10月31日	旧琴南町教育委員会	現地説明会	中寺廃寺跡
一般		11月20･21日	旧琴南町教育委員会	琴南町 文化祭展示	琴南 ふるさと資料館
一般		通年	旧琴南町教育委員会	琴南ふるさと資料館展示	琴南 ふるさと資料館
一般	平成17年度	4月22～6月2日	旧琴南町教育委員会	旧琴南町役場ロビー連報展	琴南町役場ロビー
一般		10月10日	旧琴南町教育委員会	現地説明会	中寺廃寺跡
一般		11月5･6日	旧琴南町教育委員会	旧 琴南町文化祭展示	琴南 ふるさと資料館
一般		通年	旧琴南町教育委員会	琴南ふるさと資料館展示	琴南 ふるさと資料館
一般	平成18年度	10月22日	まんのう町教育委員会	現地説明会	中寺廃寺跡
一般		11月4･5日	まんのう町教育委員会	まんのう町琴南地区文化祭展示	琴南 ふるさと資料館
一般		11月18･19日	まんのう町教育委員会	まんのう町満濃地区文化祭展示	満濃農村環境改善センター
一般		1月10日～26日	まんのう町教育委員会	まんのう町役場ロビー連報展	まんのう町役場ロビー
一般		3月18日	まんのう町教育委員会	大川山～中 寺廃寺跡ハイキング	中寺廃寺跡
一般		通年	まんのう町教育委員会	琴南ふるさと資料館展示	琴南 ふるさと資料館
一般	平成19年度	10月27日	まんのう町教育委員会	現地説明会(雨天のため調査成果報告会)	琴南公民館
一般		11月3･4日	まんのう町教育委員会	まんのう町琴南地区文化祭展示	琴南 ふるさと資料館
一般		11月17･18日	まんのう町教育委員会	まんのう町 文化祭展示	仲南公民館
一般		11月25日	まんのう町教育委員会	大川山～中 寺廃寺跡ハイキング	中寺廃寺跡
一般		通年	まんのう町教育委員会	琴南ふるさと資料館展示	琴南 ふるさと資料館
一般	平成20年度	5月18日	文化財保護協会	まんのう町文化財保護協会総会上原真人氏記念講演	まんのう町民文化ホール
登録会員		5月25日	仲善シルバー人材センター歴史同好会	仲 善シルバー人材センター歴史同好会見学	中寺廃寺跡
一般		11月1･2日	まんのう町教育委員会	まんのう町琴南地区文化祭展示	琴南 ふるさと資料館
一般		11月22･23日	まんのう町教育委員会	まんのう町 文化祭展示	満濃農村環境改善センター
一般		12月3～12日	まんのう町教育委員会	まんのう町役場ロビー連報展	まんのう町役場ロビー
一般		通年	まんのう町教育委員会	琴南ふるさと資料館展示	琴南 ふるさと資料館

教職員

琴南中学校教職員	平成16年度	11月26日	琴南中学校	琴南中学校教職員見学	中寺廃寺跡
琴南小学校教職員	平成19年度	7月30日	琴南小学校	琴南小学校教職員見学	中寺廃寺跡
高校地歴公民科教職員		2月12日	香川県高等学校地歴公民科研究会	香川県高等学校地歴公民科研究会講演	小豆島高校
高校地歴公民科教職員	平成20年度	8月4日	香川県高等学校地歴公民科研究会	香川県高等学校地歴公民科研究会見学	中寺廃寺跡
香川県自治振興課職員		12月5日	香川県	香川県自治振興課職員 琴南ふるさと資料館見学	琴南 ふるさと資料館

町民

文化財保護協会会員	平成16年度	7月9日	文化財保護協会	旧琴南町文 化財保護協会総会講演	琴南公民館
旧仲南町住民	平成17年度	10月18日	旧仲南町	旧仲南町 成人講座見学	中寺廃寺跡
文化財保護協会会員	平成18年度	5月23日	文化財保護協会	まんのう町文化財保護協会仲南支部総会講演	仲南公民館
文化財保護協会会員	平成19年度	5月27日	文化財保護協会	まんのう町文化財保護協会琴南支部総会講演	琴南公民館
町議会議員	平成20年度	6月15日	まんのう町	町議会議員視察	中寺廃寺跡
文化財保護協会会員		6月4日	文化財保護協会	まんのう町文化財保護協会琴南支部総会講演	琴南公民館
婦人会会員		7月6日	まんのう町	まんのう町女性大学講演	まんのう町役場

子ども・学生

琴平町児童	平成17年度	8月12日	琴平町教育委員会	琴平町子ども夏休み講座発掘体験	中寺廃寺跡
香川大学学生	平成18年度	9月29日	香川大学	香川大学学生見学	中寺廃寺跡
琴南小学校6年生		12月13日	琴南小学校	琴南小学校6年生琴南ふるさと資料館見学	琴南 ふるさと資料館
琴南中学校生徒	平成19年度	4月19日	琴南中学校	琴南中学校遠足	中寺廃寺跡
琴南小学校6年生		12月11日	琴南小学校	琴南小学校6年生琴南ふるさと資料館見学	琴南 ふるさと資料館

ところ別

中寺廃寺跡

ところ	日時		主催	対象	内容
中寺廃寺跡	平成16年度	10月31日	旧琴南町教育委員会	一般	現地説明会
		11月26日	琴南中学校	琴南中学校教職員	琴南中学校 教職員見学
		8月12日	琴平町教育委員会	琴平町児童	琴平町子ども夏休み講座発掘体験
		10月10日	旧琴南町教育委員会	一般	現地説明会
		10月18日	旧仲南町	旧仲南町住民	旧仲南町成人講座見学
	平成17年度	6月15日	まんのう町	町議会議員	町議会議員視察
		9月29日	香川大学	香川大学学生	香川大学学生見学
	平成18年度	10月22日	まんのう町教育委員会	一般	現地説明会
		3月18日	まんのう町教育委員会	一般	大川山～中 寺廃寺跡ハイキング
	平成19年度	4月19日	琴南中学校	琴南中学校生徒	琴南中学校遠足
		7月30日	琴南小学校	琴南小学校教職員	琴南小学校 教職員見学
		11月25日	まんのう町教育委員会	一般	大川山～中 寺廃寺跡ハイキング
	平成20年度	5月25日	仲善シルバー人材センター歴史同好会	登録会員	仲善シルバー人材センター歴史同好会見学
		8月4日	香川県高等学校地歴公民科研究会	高校地歴公民科教職員	香川県高等学校地歴公民科研究会見学

琴南ふるさと資料館

琴南ふるさと資料館	平成16年度	11月20･21日	旧琴南町教育委員会	一般	琴南町文化祭展示
		通年	旧琴南町教育委員会	一般	琴南ふるさと資料館展示
	平成17年度	11月5･6日	旧琴南町教育委員会	一般	旧琴南町文化祭展示
		通年	旧琴南町教育委員会	一般	琴南ふるさと資料館展示
	平成18年度	11月4･5日	まんのう町教育委員会	一般	まんのう町琴南地区文化祭展示
		12月13日	琴南小学校	琴南小学校6年生	琴南小学校6年生琴南ふるさと資料館見学
		通年	まんのう町教育委員会	一般	琴南ふるさと資料館展示
	平成19年度	11月3･4日	まんのう町教育委員会	一般	まんのう町琴南地区文化祭展示
		12月11日	琴南小学校	琴南小学校6年生	琴南小学校6年生琴南ふるさと資料館見学
		通年	まんのう町教育委員会	一般	琴南ふるさと資料館展示
	平成20年度	11月1･2日	まんのう町教育委員会	一般	まんのう町琴南地区文化祭展示
		12月5日	香川県	香川県自治振興課職員	香川県自治振興課職員琴南ふるさと資料館見学
		通年	まんのう町教育委員会	一般	琴南ふるさと資料館展示

町施設

琴南町役場ロビー	平成17年度	4月22～6月2日	旧琴南町教育委員会	一般	旧琴南町役場ロビー連報展
琴南公民館		7月9日	文化財保護協会	文化財保護協会会員	旧琴南町文 化財保護協会総会講演
仲南公民館	平成18年度	5月23日	文化財保護協会	文化財保護協会会員	まんのう町文化財保護協会仲南支部総会講演
琴南公民館		5月27日	文化財保護協会	文化財保護協会会員	まんのう町文化財保護協会琴南支部総会講演
満濃農村環境改善センター		11月18･19日	まんのう町教育委員会	一般	まんのう町満濃地区文化祭展示
まんのう町役場ロビー		1月10日～26日	まんのう町教育委員会	一般	まんのう町役場ロビー連報展
琴南公民館		6月4日	文化財保護協会	文化財保護協会会員	まんのう町文化財保護協会琴南支部総会講演
琴南公民館	平成19年度	10月27日	まんのう町教育委員会	一般	現地説明会(雨天のため調査成果報告会)
仲南公民館		11月17･18日	まんのう町教育委員会	一般	まんのう町文化祭展示
まんのう町民文化ホール	平成20年度	5月18日	文化財保護協会	一般	まんのう町文化財保護協会総会上原真人氏記念講演
まんのう町役場		7月6日	まんのう町	婦人会会員	まんのう町女性大学講演
満濃農村環境改善センター		11月22･23日	まんのう町教育委員会	一般	まんのう町文化祭展示
まんのう町役場ロビー		12月3～12日	まんのう町教育委員会	一般	まんのう町役場ロビー連報展

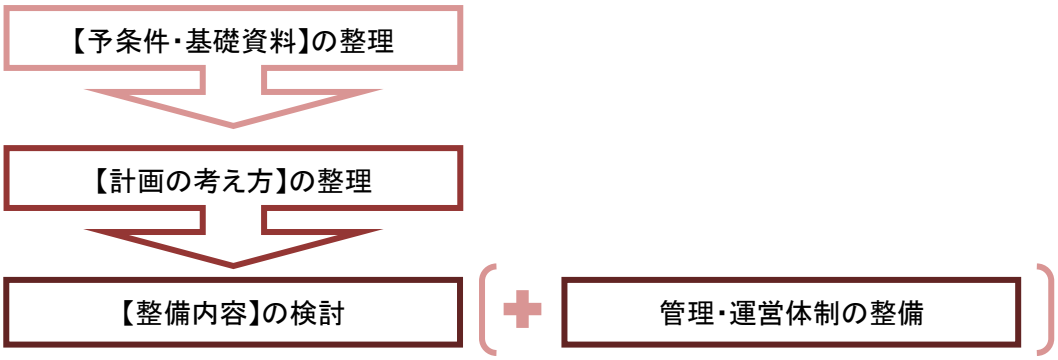
その他

小豆島高校	平成19年度	2月12日	香川県高等学校地歴公民科研究会	高校地歴公民科教職員	香川県高等学校地歴公民科研究会講演

３．本計画書の構成について

計画事業を行う際には、具体的施設の検討に入る前に、諸条件及び計画方針の確認を十分に行っておく必要がある。

整備事業の検討には、以下の３つの作業について順を追って行う。



史跡中寺廃寺跡の整備事業を検討する上で整理するべき事項とそれについての作業段階の概略は以下の通りである。

Ⅰ. 広域的な観点からの検討

1. 史跡中寺廃寺跡の周辺地域の文化財の概況

↓

2. まんのう町における文化財及び公的施設等の観点からの史跡中寺廃寺跡の位置づけ

- これまでの議論の整理と既往事項の確認

町政における史跡中寺廃寺跡の保護施策の位置づけを簡潔に整理する。

↓

Ⅱ. 史跡指定地及びその周辺(近接地)に関する検討

1. 史跡中寺廃寺跡の遺跡としての構成

- 遺跡空間の構成、成立過程等の概要

↓

2. 史跡中寺廃寺跡の整備における理念

- 整備事業の目的と目標の明確化

これまでの議論を踏まえ、目指すべき方向性を簡潔な形で明文化する。
事業がいついかなる段階においても、ここに表現されたことと合致しているかどうかのチェック機能を持つ。

↓

3. 整備事業の基本方針と実現のための必要な事項

- 理念を実現するための実務方針

理念が反映された整備事業を実施するための重要な観点について検討する。

↓

4. 史跡中寺廃寺跡の整備事業における《ゾーニング》とそれを結ぶ《基幹動線》

- Ⅱ-1「遺跡としての構成」から整備する範囲のゾーニング

↓

- 各ゾーンとそれらを結ぶ動線についての整備イメージ

↓

5. 整備事業における機能配置

- 具体的に機能する施設の配置

機能として【遺構の保存・活用】、【来訪者の休憩・便益】、【景観・環境の保全】に観点を置く。

↓

Ⅲ. 事業スケジュール等

1. 史跡整備スケジュール

2. 管理・運営体制

Ⅰ．広域的な観点からの検討

１．史跡中寺廃寺跡の周辺地域の文化財の概況

（１）自然的環境

◆　地理

中寺廃寺跡は、まんのう町の琴南地区に所在する。町の面積は 194.33 ㎢、人口は約２万人である。香川県中部（中讃）に位置し、東は綾川町・高松市、西は三豊市、北は丸亀市・善通寺市・琴平町、南は徳島県美馬市・三好市・東みよし町に接している。琴南地区は町の南東部にあたり、南部及び南西部には、標高 1,000ｍを超える竜王山（1059.9ｍ）、大川山（1042.9ｍ）を主峰とする讃岐山脈が連なり、その麓を県下で唯一の一級河川土器川が北流している。土器川を溯り、讃岐山脈の分水嶺となる三頭峠まで登り詰めると、切り立つように急峻な眼下に、東に向けて滔々と流れる吉野川を望み、対岸には剣山を擁する四国山地の山並が続く。北部は讃岐山脈から北方に続く焼尾台地と城山山地、土器川沿岸の河谷低地である造田盆地などから構成されている。中央構造線の大断層を南限とする讃岐山脈は、琴南地区の焼尾と徳島県美馬市の猿坂を通る隆起軸を中心に南は急激に高く、北と東西は徐々に低く、四半球状に曲隆している。和泉層群と呼ばれる礫岩・砂岩・泥岩の互層から成る山体は、選択浸食によるケスタ状の山稜を持つ峡谷に刻まれている。

中寺廃寺跡は、和泉層群からなる大川山の香川県側山間部に位置し、大川山頂より西北西約 2.5㎞、標高約 700ｍの地点で、小尾根から東へ開けた谷を囲むように分布する平坦地群の総称である。平坦地群は、最も高い部分に位置するＡ地区、谷の北側に位置するＢ地区、Ｂ地区と谷を挟んで向かい合うＣ地区の３地区に大きく分けられる。尾根上の平坦地からは香川県全域を見渡

すことができる。山腹の平坦地の視界は、尾根に遮られるため遠望することはできないが、Ｂ地区南東方向の視界は開けており、古くから信仰されてきた大川山を望むことができる。東へ開けた谷には、大川山北側から中寺廃寺跡付近にかけて降った雨が流入する柞野川（くにぎのがわ）が流れる。柞野川は流路延長4.7km、下流のまんのう町造田宮田で土器川に合流する。

まんのう町全景（北西より）

◆　気候

琴南地区の気候は香川県で一般的にいわれる瀬戸内式気候とは異なっている。四国山地の北側にある瀬戸内海沿岸ではフェーン現象で盛夏に干害が起こりやすいが、琴南地区では竜王山、大川山から流出する水が常に豊富にあり、渇水になることは稀である。また、近年減少しつつあるが、12 月初旬より３月上旬までかなりの積雪があり、山間部の集落では、一旦積もった雪は解けにくく、中寺廃寺跡においても同じ環境であるといえる。琴南地区では、盛夏の昼間に山頂部が高温となり、空気が温められて上昇するため谷から山頂へ吹く風が起こり、夜間には冷却した山頂部の空気が谷に沿って吹き下ろす谷風・山風の現象がある。讃岐山脈の尾根近くに存在し、雲が停滞しやすい中寺廃寺跡の気象条件は琴南地区の中でも特に変則的で予測しにくいといえる。

風速について、まんのう町の西に隣接し、讃岐山脈の谷あいに存在することから立地環境が良く似ている三豊市財田町では、昭和 54 年～平成 12 年までの月最速平均風速が、１月～４月で毎秒 1.5m、月最遅平均風速が６月・７月・９月～11 月で毎秒 1.2m、全年平均が 1.3mであった。中寺廃寺跡の尾根筋ではもう少し大きい値になると思われる。

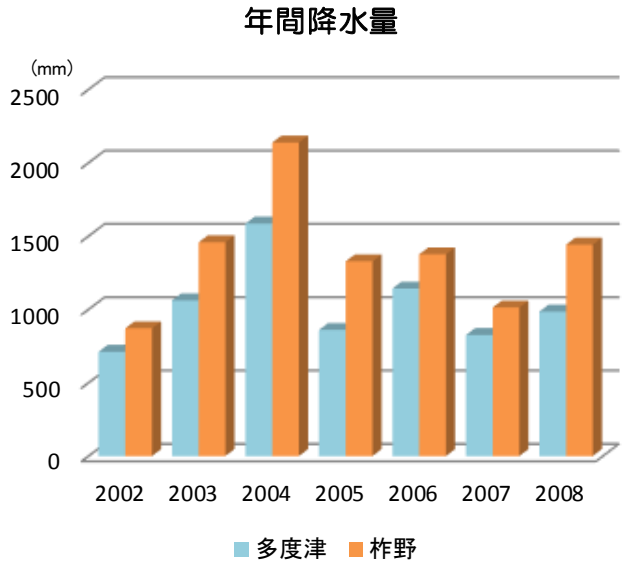
日照時間について、同じく三豊市財田町では、昭和 61 年～平成 12 年までの月最長平均時間が８月で 205.9 時間、月最短平均時間が１月で 96.6 時間であった。

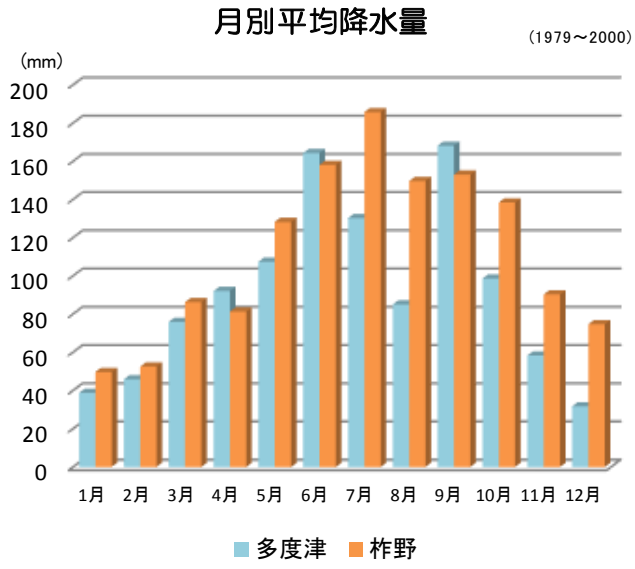
気温について、まんのう町川東堀田（かわひがしほりた）（標高約 300m）では、月最高平均気温は８月 26.5℃、月最低平均気温は１月で 2.5℃、年平均気温 15.6℃であった。中寺廃寺跡では、さらに標高が 400～450m高いことから２～2.5℃程度低くなると考えられる。

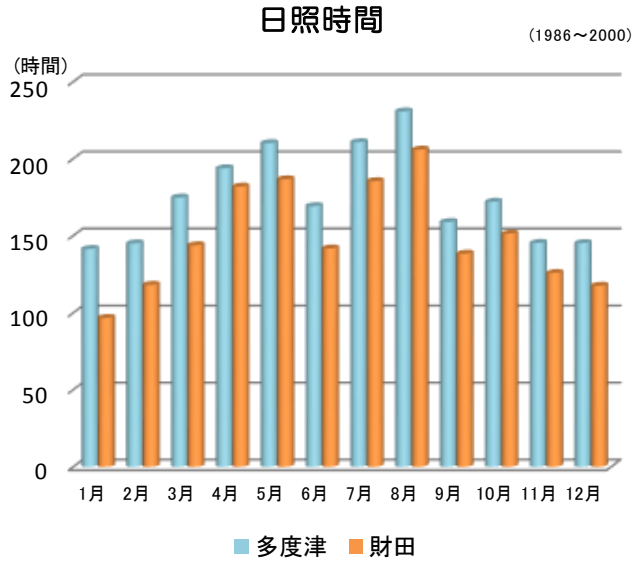
降水量について、中寺廃寺跡に程近いまんのう町造田の柞野では、平成 14～20 年までの平均年間降水量は 1375㎜ で、月別最高降水量は７月の 186㎜、月別最低降水量は１月の 50㎜ であった。

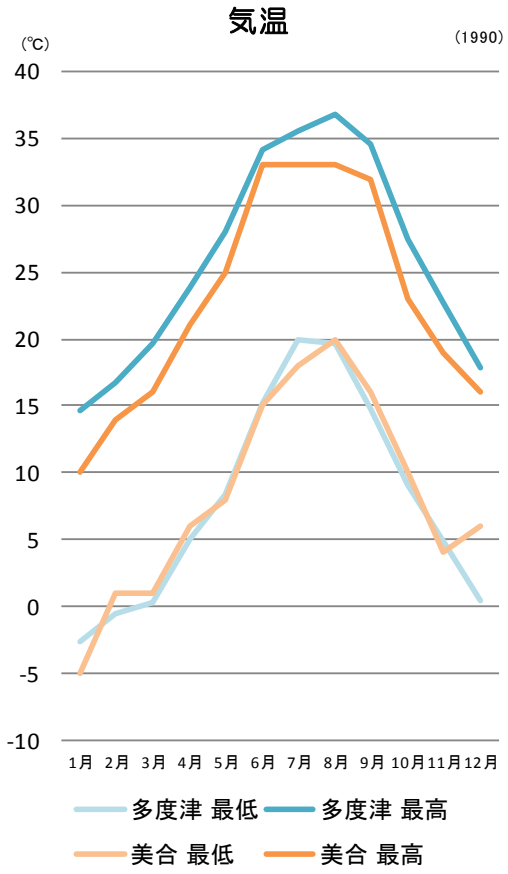
◆　動物

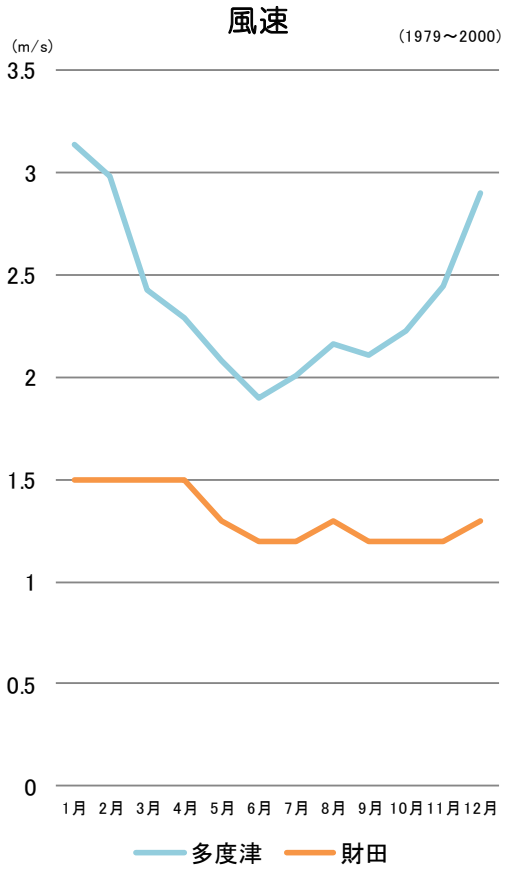
琴南地区で生息が確認されている哺乳類は、家畜を除き 17 種である。これらの多くは山中に生


年間降水量
(mm)
2500
2000
1500
1000
500
0
2002
2003
2004
2005
2006
2007
2008
多度津
柞野


月別平均降水量
(1979～2000)
(mm)
200
180
160
140
120
100
80
60
40
20
0
1月
2月
3月
4月
5月
6月
7月
8月
9月
10月
11月
12月
多度津
柞野


日照時間
(1986～2000)
(時間)
250
200
150
100
50
0
1月
2月
3月
4月
5月
6月
7月
8月
9月
10月
11月
12月
多度津
財田


気温
(1990)
(℃)
40
35
30
25
20
15
10
5
0
-5
-10
1月
2月
3月
4月
5月
6月
7月
8月
9月
10月
11月
12月
多度津 最低
多度津 最高
美合 最低
美合 最高


風速
(1979～2000)
(m/s)
3.5
3
2.5
2
1.5
1
0.5
0
1月
2月
3月
4月
5月
6月
7月
8月
9月
10月
11月
12月
多度津
財田

息することから、中寺廃寺跡を含む大川山中にも生息していると考えられる。中でもアズマモグラ、アナグマが、香川県における準絶滅危惧種に指定されている。最近では約 20 年前より徳島県から流入し、定住したイノシシの獣害が問題化している。

大川山で確認された鳥類は、留鳥が 33 種､冬季に北方から渡来する冬鳥が 27 種､夏季に南方から渡来して繁殖する夏鳥が 18 種､通過する旅鳥が５種確認されている。以上の数は他市町に例のない多さで、大川山の自然が鳥類の生態に大きな影響を与えていることが伺える。中でも香川県において、サシバ、クマタカが絶滅危惧種、ツツドリ、サンコウチョウ、ヤマドリ、ツミが準絶滅危惧種に指定されている。

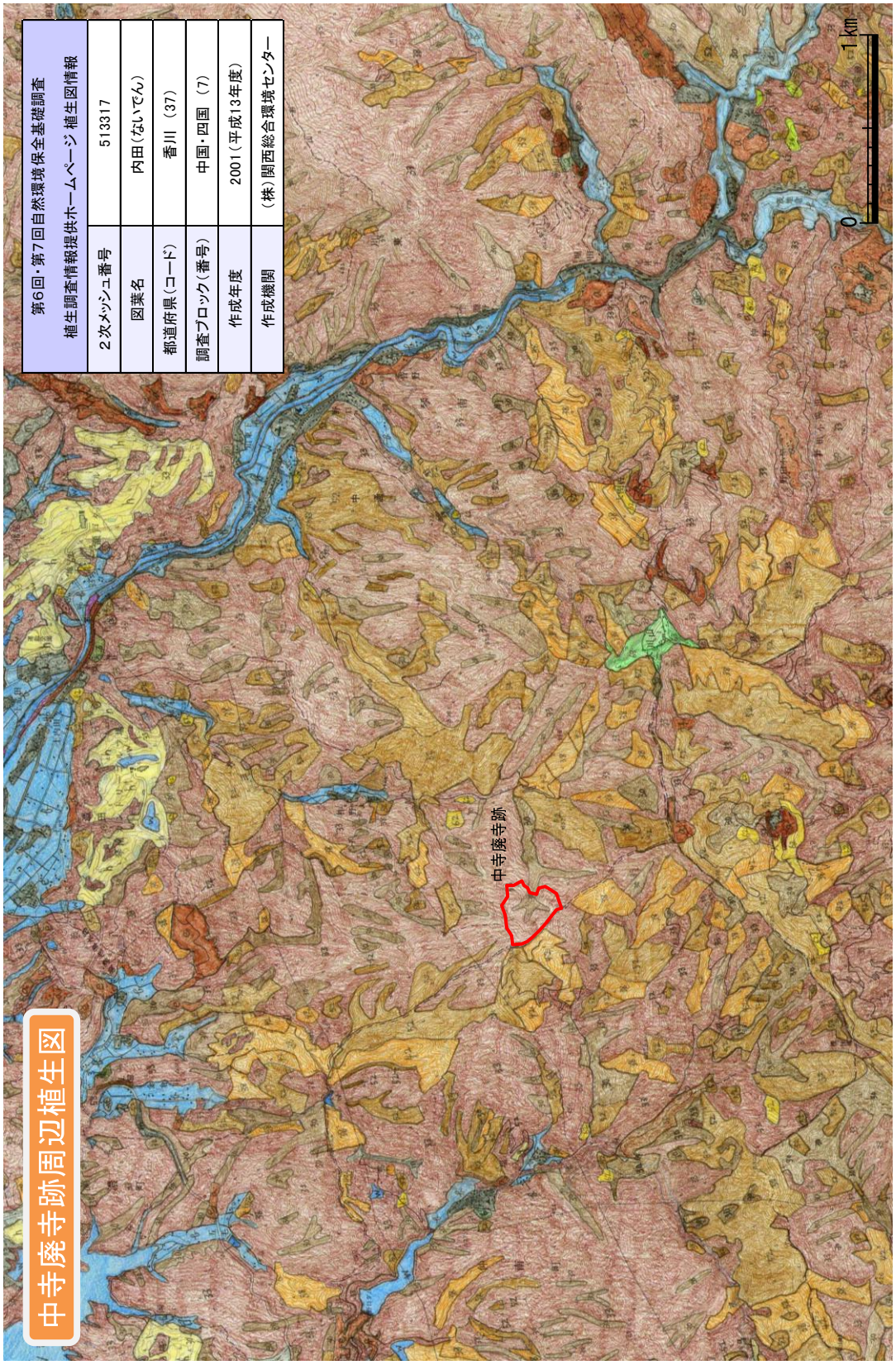
琴南地区で生息が確認されている爬虫類は９種である。中でもニホントカゲが香川県における準絶滅危惧種に指定されている。

琴南地区で生息が確認されている両生類は 13 種である。中でも香川県において、カスミサンショウウオが絶滅危惧種、ニホンヒキガエル、トノサマガエルが準絶滅危惧種に指定されている。

琴南地区で生息が確認されている魚類は 14 種である。中でも香川県において、ヤリタナゴ、アカザ、カジカ、ドジョウ、オヤニラミが絶滅危惧種、タカハヤ、スジシマドジョウが準絶滅危惧種に指定されている。

◆　**植物**

琴南地区は讃岐山脈の北斜面に位置し、高峰を有することが全体的に湿潤な土地条件を作り出しており、県下有数の植物の豊富な地域となっている。垂直分布的にみると、讃岐山脈上部では約 1,000ｍの高度部分が帯状に伸び、高度差による温度変化に更に山頂効果が加わり、暖温帯から冷温帯への移行形を示し、低地帯とは異なる植相・植生をみせている。しかし、古くから人の


中寺廃寺跡周辺植生図
第6回・第7回自然環境保全基礎調査
植生調査情報提供ホームページ 植生図情報
2次メッシュ番号 513317
図葉名 内田（ないでん）
都道府県（コード） 香川 （37）
調査ブロック（番号） 中国・四国 （7）
作成年度 2001（平成13年度）
作成機関 （株）関西総合環境センター
中寺廃寺跡
0
1 km

植生図 ブロック別凡例一覧表 2001中国・四国

凡例番号	凡例コードと凡例名			植生区分名		大区分		中区分		細区分
1	130401	イヌシデーアカシデ群落	Ⅳ	ブナクラス域自然植生	13	落葉広葉樹林(太平洋型)	04	イヌシデーアカシデ群落	01	イヌシデーアカシデ群落
63	220700	アカシデーイヌシデ群落(Ⅴ)	Ⅴ	ブナクラス域代償植生	22	落葉広葉樹二次林	07	アカシデーイヌシデ群落	00	
63(淡緑)	220700	アカシデーイヌシデ群落(Ⅴ)	Ⅴ	ブナクラス域代償植生	22	落葉広葉樹二次林	07	アカシデーイヌシデ群落	00	
2	270100	シラカシ群落	Ⅵ	ヤブツバキクラス域自然植生	27	常緑広葉樹林	01	シラカシ群落	00	
3	270200	アラカシ群落	Ⅵ	ヤブツバキクラス域自然植生	27	常緑広葉樹林	02	アラカシ群落	00	
4	270300	アカガシ群落	Ⅵ	ヤブツバキクラス域自然植生	27	常緑広葉樹林	03	アカガシ群落	00	
5	270400	ツクバネガシ群落	Ⅵ	ヤブツバキクラス域自然植生	27	常緑広葉樹林	04	ツクバネガシ群落	00	
6	270500	ウラジロガシ群落	Ⅵ	ヤブツバキクラス域自然植生	27	常緑広葉樹林	05	ウラジロガシ群落	00	
7	271102	カナメモチーコジイ群集	Ⅵ	ヤブツバキクラス域自然植生	27	常緑広葉樹林	11	コジイ群落	02	カナメモチーコジイ群集
9	271600	タブノキ群落	Ⅵ	ヤブツバキクラス域自然植生	27	常緑広葉樹林	16	タブノキ群落	00	
11	272000	クロバイ群落	Ⅵ	ヤブツバキクラス域自然植生	27	常緑広葉樹林	20	クロバイ群落	00	
12	280100	モミ群落(Ⅵ)	Ⅵ	ヤブツバキクラス域自然植生	28	暖温帯針葉樹林	01	モミ群落	00	
13	290100	アカマツ群落(Ⅵ)	Ⅵ	ヤブツバキクラス域自然植生	29	岩角地・海岸断崖地針葉樹林	01	アカマツ群落	00	
16	300100	ケヤキ群落(Ⅵ)	Ⅵ	ヤブツバキクラス域自然植生	30	落葉広葉樹林	01	ケヤキ群落	00	
15	300401	イヌシデーアカシデ群落(Ⅵ)	Ⅵ	ヤブツバキクラス域自然植生	30	落葉広葉樹林	04	イヌシデーアカシデ群落	01	イヌシデーアカシデ群落
17	310100	ハンノキ群落(Ⅵ)	Ⅵ	ヤブツバキクラス域自然植生	31	沼沢林	01	ハンノキ群落	00	
19	320100	ヤナギ高木群落(Ⅵ)	Ⅵ	ヤブツバキクラス域自然植生	32	河辺林	01	ヤナギ高木群落	00	
20	320101	ジャヤナギ群落	Ⅵ	ヤブツバキクラス域自然植生	32	河辺林	01	ヤナギ高木群落	01	ジャヤナギ群落
21	320102	アカメヤナギ群落	Ⅵ	ヤブツバキクラス域自然植生	32	河辺林	01	ヤナギ高木群落	02	アカメヤナギ群落
23	330700	イワシデ群落(Ⅵ)	Ⅵ	ヤブツバキクラス域自然植生	33	自然低木群落	07	イワシデ群落	00	
24	330800	イブキシモツケ群落	Ⅵ	ヤブツバキクラス域自然植生	33	自然低木群落	08	イブキシモツケ群落	00	
25	340201	トベラーウバメガシ群集	Ⅵ	ヤブツバキクラス域自然植生	34	海岸風衝低木群落	02	ウバメガシ群落	01	トベラーウバメガシ群集
26	400100	シイ・カシ二次林	Ⅶ	ヤブツバキクラス域代償植生	40	常緑広葉樹二次林	01	シイ・カシ二次林	00	
27	400600	ウバメガシ二次林	Ⅶ	ヤブツバキクラス域代償植生	40	常緑広葉樹二次林	06	ウバメガシ二次林	00	
30	410100	コナラ群落(Ⅶ)	Ⅶ	ヤブツバキクラス域代償植生	41	落葉広葉樹二次林	01	コナラ群落	00	
31	410900	ミズキ群落	Ⅶ	ヤブツバキクラス域代償植生	41	落葉広葉樹二次林	09	ミズキ群落	00	
32	411001	アカメガシワーエノキ群落	Ⅶ	ヤブツバキクラス域代償植生	41	落葉広葉樹二次林	10	エノキ群落	01	アカメガシワーエノキ群落
33	420100	アカマツ群落(Ⅶ)	Ⅶ	ヤブツバキクラス域代償植生	42	常緑針葉樹二次林	01	アカマツ群落	00	
34	420107	ネズーアカマツ群落	Ⅶ	ヤブツバキクラス域代償植生	42	常緑針葉樹二次林	01	アカマツ群落	07	ネズーアカマツ群落
35	420200	クロマツ群落(Ⅶ)	Ⅶ	ヤブツバキクラス域代償植生	42	常緑針葉樹二次林	02	クロマツ群落	00	
36	430000	タケ・ササ群落	Ⅶ	ヤブツバキクラス域代償植生	43	タケ・ササ群落	00		00	
37	430200	メダケ群落	Ⅶ	ヤブツバキクラス域代償植生	43	タケ・ササ群落	02	メダケ群落	00	
38	440000	低木群落	Ⅶ	ヤブツバキクラス域代償植生	44	低木群落	00		00	
39	440200	クズ群落	Ⅶ	ヤブツバキクラス域代償植生	44	低木群落	02	クズ群落	00	
40	450100	ススキ群団(Ⅶ)	Ⅶ	ヤブツバキクラス域代償植生	45	二次草原	01	ススキ群団	00	
41	450300	ウラジローコシダ群落	Ⅶ	ヤブツバキクラス域代償植生	45	二次草原	03	ウラジローコシダ群落	00	
42	460000	伐採跡地群落(Ⅶ)	Ⅶ	ヤブツバキクラス域代償植生	46	伐採跡地群落	00		00	
44	470200	ヌマガヤオーダー	Ⅷ	河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生等	47	湿原・河川・池沼植生	02	ヌマガヤオーダー	00	
45	470400	ヨシクラス	Ⅷ	河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生等	47	湿原・河川・池沼植生	04	ヨシクラス	00	
48	470403	セイタカヨシ群落	Ⅷ	河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生等	47	湿原・河川・池沼植生	04	ヨシクラス	03	セイタカヨシ群落
46	470501	ツルヨシ群集	Ⅷ	河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生等	47	湿原・河川・池沼植生	05	河川敷砂礫地植生	01	ツルヨシ群集
47	470502	オギ群集	Ⅷ	河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生等	47	湿原・河川・池沼植生	05	河川敷砂礫地植生	02	オギ群集
49	470600	ヒルムシロクラス	Ⅷ	河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生等	47	湿原・河川・池沼植生	06	ヒルムシロクラス	00	
50	480000	塩沼地植生	Ⅷ	河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生等	48	塩沼地植生	00		00	
51	490000	砂丘植生	Ⅷ	河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生等	49	砂丘植生	00		00	
52	540100	スギ・ヒノキ・サワラ植林	Ⅸ	植林地、耕作地植生	54	植林地	01	スギ・ヒノキ・サワラ植林	00	
53	540200	アカマツ植林	Ⅸ	植林地、耕作地植生	54	植林地	02	アカマツ植林	00	
54	540300	クロマツ植林	Ⅸ	植林地、耕作地植生	54	植林地	03	クロマツ植林	00	
56	540900	外国産樹種植林	Ⅸ	植林地、耕作地植生	54	植林地	09	外国産樹種植林	00	
58	541000	その他植林	Ⅸ	植林地、耕作地植生	54	植林地	10	その他植林	00	
60	541203	オオバヤシャブシ植林	Ⅸ	植林地、耕作地植生	54	植林地	12	その他植林(落葉広葉樹)	03	オオバヤシャブシ植林
61	541301	クスノキ植林	Ⅸ	植林地、耕作地植生	54	植林地	13	その他植林(常緑広葉樹)	01	クスノキ植林
28	541303	クスノキ群落	Ⅸ	植林地、耕作地植生	54	植林地	13	その他植林(常緑広葉樹)	03	クスノキ群落
29	541303	クスノキ群落	Ⅸ	植林地、耕作地植生	54	植林地	13	その他植林(常緑広葉樹)	03	クスノキ群落
62	550000	竹林	Ⅸ	植林地、耕作地植生	55	竹林	00		00	
h	560100	ゴルフ場・芝地	Ⅸ	植林地、耕作地植生	56	牧草地・ゴルフ場・芝地	01	ゴルフ場・芝地	00	
g	560200	牧草地	Ⅸ	植林地、耕作地植生	56	牧草地・ゴルフ場・芝地	02	牧草地	00	
f	570100	路傍・空地雑草群落	Ⅸ	植林地、耕作地植生	57	耕作地	01	路傍・空地雑草群落	00	
c	570101	放棄畑雑草群落	Ⅸ	植林地、耕作地植生	57	耕作地	01	路傍・空地雑草群落	01	放棄畑雑草群落
e	570200	果樹園	Ⅸ	植林地、耕作地植生	57	耕作地	02	果樹園	00	
a	570300	畑雑草群落	Ⅸ	植林地、耕作地植生	57	耕作地	03	畑雑草群落	00	
b	570400	水田雑草群落	Ⅸ	植林地、耕作地植生	57	耕作地	04	水田雑草群落	00	
d	570500	放棄水田雑草群落	Ⅸ	植林地、耕作地植生	57	耕作地	05	放棄水田雑草群落	00	
k	580100	市街地	Ⅹ	その他	58	市街地等	01	市街地	00	
i	580101	緑の多い住宅地	Ⅹ	その他	58	市街地等	01	市街地	01	緑の多い住宅地
63(灰)	580200	残存・植栽樹群をもった公園、墓地等	Ⅹ	その他	58	市街地等	02	残存・植栽樹群をもった公園、墓地等	00	
p	580200	残存・植栽樹群をもった公園、墓地等	Ⅹ	その他	58	市街地等	02	残存・植栽樹群をもった公園、墓地等	00	
l	580300	工場地帯	Ⅹ	その他	58	市街地等	03	工場地帯	00	
m	580400	造成地	Ⅹ	その他	58	市街地等	04	造成地	00	
n	580500	干拓地	Ⅹ	その他	58	市街地等	05	干拓地	00	
w	580600	開放水域	Ⅹ	その他	58	市街地等	06	開放水域	00	
r	580700	自然裸地	Ⅹ	その他	58	市街地等	07	自然裸地	00	

共通の凡例番号を使用している植生図の凡例をまとめて示しています

手が加わり、原植生の名残を点々と留めながらも、多くが自然二次林、人為二次林となっている。

大川山付近の植生の特徴にアラカシ林、ウラジロガシ林、アカガシ林の発達が挙げられる。特に山頂のイヌシデ林は、貴重な群落を形成しながら混生する他の植物を含め県下最大の自然植生を示している。このイヌシデ林の中には、香川県において絶滅危惧種に指定されているヤマシャクヤク、準絶滅危惧種に指定されているイヌブナ等、貴重な種も確認される。また大川山より西へと広がるコナラを中心とした落葉樹林は、二次林ながら非常に発達し紅葉時には目を見張るものがある。コナラ林に次いでアカマツ林も多く、アカマツ林に伴いツツジ類も広くみられる。特に、オンツツジは広く分布し、大きく成長したものもある。大川山の草地では、香川県において絶滅危惧種に指定されているキンラン、ギンラン、クロフネサイシン、準絶滅危惧種に指定されているリンドウ、センブリ等が確認される。

（２）社会的環境

まんのう町は、平成 18 年３月 20 日に香川県仲多度郡南部の３町（琴南町（ことなみちょう）、満濃町（まんのうちょう）、仲南町（ちゅうなんちょう））が合併して誕生した町で、平成 22 年２月１日現在の人口は 20,216 人（男性:9,713 人、女性:10,503 人）、世帯数:7,045 世帯である。１世帯あたりの人口は 2.87 人、65 歳以上の人口は 6,127 人で山間部の集落では高齢化、過疎化が進行している。財政規模は約 89.4 億円、うち町民税額 6.2 億円、実質公債費比率 15.8%で自主財源確保に向けた行政経営を進めている。生活面では町道舗装率 89.7%、水道普及率 96.9%、生活排水処理世帯比率 36%、自主防災組織結成率 73.6%、高速通信網利用可能世帯率 81%となっている。

主要な産業は農業であるが、昭和 50 年代からの全国的な農業収入低化の流れに伴い、多くの農家が第２次・第３次産業との兼業となっている。現在、農業生産法人数５法人、ブランド農産物・

加工品の開発数年２件であるが、衰退した農業の振興を目指し、意欲的な担い手の育成、生産基盤の整備と農村環境の保全、「まんのうブランド」特産品の開発、地産地消等に取り組んでいる。

産業別15歳以上就業者数（平成17年10月１日現在）										
第1次産業										
農業				林業			漁業			
1,540				12			2			
第2次産業										
鉱業		建設業			製造業			電気・ガス・熱供給・水道業		
2		1,297			1,635			31		
第3次産業										
情報通信業	運輸業	卸売・小売業	金融・保険業	不動産業	飲食店・宿泊業	医療・福祉	教育・学習支援業	複合サービス事業	サービス業（他に分類されないもの）	公務(他に分類されないもの)
84	415	1,407	154	33	327	1,152	366	237	1,002	394
不祥	合計									
32	10,122									

自然環境に恵まれた町の特徴を生かし、自然の保全に取り組み、観光への活用を目指している。また、他市町の観光地との連携、住民参加型による観光の振興を図り、交流・滞在人口の増加を目指している。現在、自然・景観団体・グループ数２団体、環境ボランティア登録数 300 人、町ホームページアクセス数年間 13 万件、町ホームページ「観光・イベント情報」へのアクセス数１日 96 件、主要新聞地方版での掲載回数年３回、テレビでの放送回数年２回、観光インストラクター数 76 人、観光ボランティア数 120 人、主要施設の観光客数年間 133 万人、自治会活動への参加率 48.1%である。

教育分野では将来のまちづくりを担う心豊かな人材の育成、歴史遺産の保存と活用、町民の郷土意識の高揚等に取り組んでいる。現在、保育所・保育園・幼稚園数 11 園、小学校６校、中学校２校、公民館講座数 45 講座、生涯学習活動への参加率 17.1%生涯学習クラブ・サークル数 113 グループ、少年スポーツクラブの種目数５種目、スポーツ活動への参加率 8.2%、体育協会の種目数 13 種目、スポーツ施設延べ利用者数年間 54,000 人、民間の地域・国際交流団体数３団体、歴史・文化活動参加率 2.5%、芸術・文化団体数 102 団体である。

福祉分野では高齢者が住みなれた地域で安心して暮らせる地域づくり、若者が定住し安心して子育てができるまちづくり等を目指した取り組みを行っている。現在、福祉ボランティア登録団体数７団体、福祉ボランティア登録者数 703 人、子育て支援センター利用者数 1,260 人、子育てサークル数６グループ、健康づくり事業への参加率 0.8%、自立高齢者率 80.8%である。

（３）民俗的環境

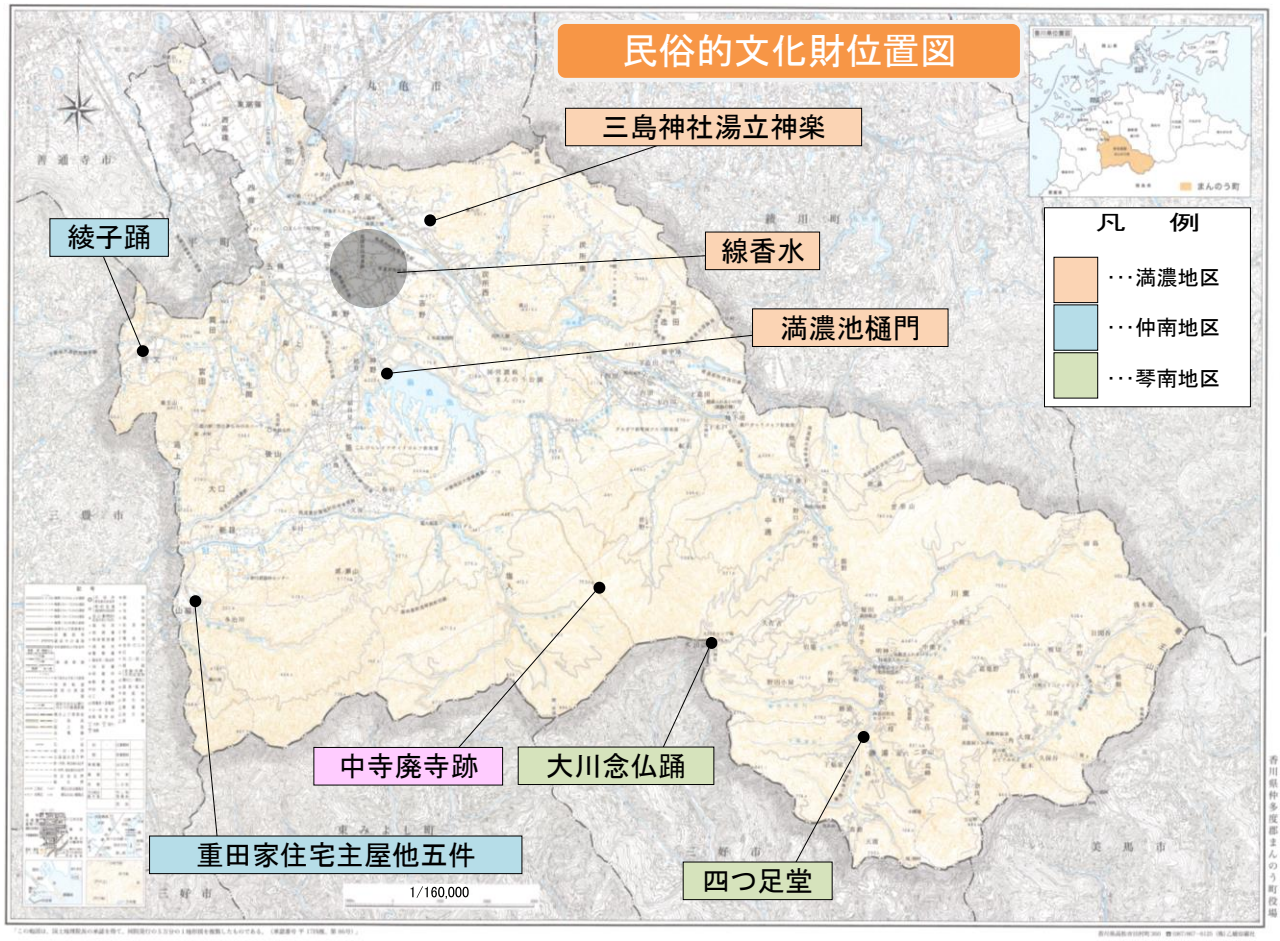
◆　満濃地区

旧満濃町は面積の多くが平野で、古くより、讃岐山脈からの「出水（ですい）」や満濃池（まんのういけ）をはじめとするため池、土器川、金倉川の水を利用した稲作の盛んな地域であった。そのため伝承されてきた風俗・習慣は農業と結びついたものが多い。特徴的なものとして吉野の線香水（せんこうみず）がある。線香水とは、

水田の引水時間を線香の燃焼時間で計り公平に水を分配する慣行で、江戸時代中期から昭和時代半ばまで続いた。旧満濃町においても、讃岐の他の地域の例に漏れず、渇水時には水利権争いが絶えなかった。そのような中、特に吉野地域は満濃池からの導水路末端に当たり水事情が悪かったことから、戦後、土地改良事業が進むまで線香水が続けられた。ため池関係の文化財として、満濃池樋門（ひもん）が国の登録有形文化財となっている。また、特徴ある秋祭りとして長尾の三島神社湯立神楽（みしまじんじゃゆだてかぐら）がまんのう町指定無形民俗文化財となっている。三島神社湯立神楽は伊勢流神楽と湯立神事が合体し、更に火渡りの神事が加わったもので、特に御神体が湯浴（ゆあ）みする点が珍しい。

◆　仲南地区

旧仲南町は林野率 76.7%の山間の町で、伊予街道、阿波街道、箸蔵街道、塩入街道といった金毘羅街道が通っていたことから、周辺の国との交流が盛んであったことが分かる。住民は主に農林業を生業とし、風俗・習慣は農業や山での暮らしに結びついたものが多く伝承されている。特徴的なものに、国指定重要無形民俗文化財となっている佐文（さぶみ）の綾子踊（あやこおどり）がある。佐文地区も古くから渇水に悩まされてきた。綾子踊はそのような中、綾子によって始められた踊が雨乞踊（あまごいおどり）として伝承された。讃岐に伝承されている雨乞踊の多くが念仏踊（ねんぶつおどり）系であるのに対し綾子踊は一種の風流踊（ふりゅうおどり）となっている。また、農家の暮らしを伝えるものに、国の登録有形文化財となっている山脇の



重田家住宅がある。海抜 140mの丘陵地帯に明治 10 年築造された、三間流れや三間通しと呼ばれる上層の農家である。主屋は屋根の四方に本瓦葺の広い庇を付けた四方蓋造と呼ばれる造りである。四方蓋造は、香川県から徳島県にかけての農家に顕著にみられる。その他長屋門、道具蔵及び雪隠、米蔵、取合廊下、石垣付及び石垣擁壁を備え農家としては稀な屋敷構えをつくる。

◆　琴南地区

中寺廃寺跡が所在する旧琴南町は林野率 85%の山間の町で、住民は主に農林業を生業としてきた。各集落で先祖や開拓神を産土神として祀り、祖先の開拓の功業と労苦を物語る伝承を受け継いでいる。そこに居住する人々の生活パターンは大きく異なり、実に変化に富む地域社会を構成している。南部は、山や谷が深く、谷ごとに小集落が形成されている。また旧琴南町は峠の多い町であり、讃岐と阿波を結ぶ金毘羅街道が通り借耕牛も往来していた。古来より阿波との交流は盛んで、経済的交流、医療関係、学校など文化的交流、そして民俗風習、言語、生活様式など阿波の影響を受けていることが多い。これらの山間の小集落は、人家５戸内外でも、氏神があり、谷を隔てた他集落とは独立した風習伝統を持っていた。北部は、土器川の氾濫源に平野が広がり稲作が盛んであった。古代より集落が形成され、金毘羅街道の要衝として栄えたことから旧琴南町において文化の中心となった地域である。金毘羅街道沿いには寄進による道標、灯籠、鳥居、茶堂などが建っていた。現在も残っているものの一つにまんのう町指定有形文化財となっている勝浦の四つ足堂がある。四つ足堂は、明神から真鈴峠を越え貞光に出る道の途中にある茶堂であり、金毘羅参りの旅人が休んだといわれている。入母屋造茅葺で粉ひき地蔵を祀った素朴なお堂である。その他、特徴的なものに、香川県指定無形民俗文化財となっている大川念仏踊がある。大川山麓の村々では古くから渇水に悩まされてきた。諸国大干ばつの時、大川神社の氏子によって雨乞踊が奉納されたことが始まりである。他地域では大人が担当する中踊を子どもが担い大人が補佐している。また県内の念仏踊の大半が滝宮天満宮に奉納するが、大川念仏踊は主に大川神社へ奉納する。

◆　峠の道

まんのう町には、古くから讃岐・阿波間を結ぶ峠越えの道が数多く通っている。こういった峠越えの道は先史時代よりあったと考えられ、これらの道が古代には官道として、中世には修験道者の道や軍用道として、近世には金毘羅街道として整えられ、讃岐山脈を挟む南北地域間の交流に利用されてきた。中でも三頭峠は、金毘羅五街道の内の一本、阿波街道であり近代まで通行量の多い道であった。まんのう町では現在、猪ノ鼻トンネル・三頭トンネルが香川・徳島間の主要な往還となっている。

現在、中寺廃寺跡は大川山麓の集落の中通、江畑、柞野から入る。中通からは大川神社参拝道を通る。大川山頂や途中の讃岐山脈尾根筋では、北には日本最大の灌漑用ため池である満濃池をはじめとするため池群が潤す讃岐平野を、南には四国山地の雄大な広がりを一望できる。

江畑、柞野からの道は、古くから大川神社参拝道、金毘羅参拝道として、また地元住民の生活道として炭焼き、林業に利用されてきた。中寺廃寺跡はその途中に位置している。これらの道は麓では前述の街道へと至り、奥では峠越の道へと至る。

（４）歴史的環境

① 概要

中寺廃寺跡付近では、中寺廃寺跡の下層より旧石器、縄文土器が少量出土している。中寺廃寺跡以外の遺跡は主に、中寺廃寺跡から麓の平野部を挟んで北東の丘陵部分、中寺廃寺跡から北西へ２km の満濃池周辺、中寺廃寺跡周辺に連なる山の谷間に広がる僅かな平野部分で確認されている。

◆　旧石器時代

旧石器時代の遺跡としては、中寺廃寺跡の下層よりサヌカイト製石器が出土している。これらの石器は蛍光Ｘ線分析により香川県五色台（ごしきだい）山系の白峰山（しらみねやま）・国分台（こくぶだい）・蓮光寺山（れんこうじやま）産であることが判明している。また、讃岐山脈を越えた三好郡（みよしぐん）東みよし町加茂山（かもやま）からサヌカイト製ナイフ形石器が採集されていることから、サヌカイトを介した徳島側と香川側の往来があったと推測される。

まんのう町の峠一覧

峠名	所在地	概要
買田峠	買田　岡下	三堺山を通り阿波街道と塩入街道を結ぶ。周辺には古墳が多数存在する。
堀切峠	岸上　堀切	塩入街道が通り、通行量は多かった。麓には金毘羅石灯籠が２基残っている。
馬背峠	生間　馬背	生間から塩入街道までの往来に利用された。
樅ノ木峠	追上　願袖	阿波街道が通る。阿波街道と呼ばれる以前から阿波・土佐と讃岐を結ぶ主要な道で、峠も多くの人馬が往来した。
東山越	塩入　八丁	塩入街道が通り、人馬が盛んに往来した。街道は途中から東山越と樫ノ休場に分岐するが明治の改修工事に際して東山越が県道とされ栄えた。
樫ノ休場	塩入　中川原	塩入街道が通り、人馬が盛んに往来した。街道は途中から東山越と樫ノ休場に分岐するが明治の改修工事に際して東山越が県道とされ、次第に寂れた。
真鈴峠	勝浦　真鈴	標高 650m、真鈴集落の間を通り、徳島県三好市三野町太刀野山大屋敷に出る切り抜きの峠。昔は借耕牛が盛んに往来した。
滝ノ奥峠	勝浦　峠	標高 650m で、昔は借耕牛が盛んに往来した。峠を越えると阿波の滝寺に下りる。養蚕が盛んだった時代には農家の人々もこの寺に参詣に行った。
二双越（立石峠）	勝浦　奈良ノ木	二双神社の前を通るためか、讃岐側ではこの名前がついた。現在は舗装され、車で通ることができる。
三頭峠	勝浦　三角	主要な阿波街道が通り標高 795m、昔は金毘羅参り、四国巡礼、花嫁行列、荷馬、借耕牛など盛んに往来があった。
寒風越	勝浦　横畑	横畑から細く急な坂を１時間登る。昔は横畑集落の大切な生活道だった。
焼尾峠	中通　焼尾	地蔵が多い。また、妖怪や源平合戦等の民話が多く残る。現在も琴南から東讃へ向かう主要な道である。
首切峠	造田　茶臼池谷	高松街道に至る。戦国時代、造田城が長宗我部軍に攻められ、家来がここで首を切られたと伝えられている。現在も琴南地区と高松方面を結ぶ主要な道である。
種子峠	炭所東　東谷	古くよりこの辺り一帯の住民が綾川・高松方面へ抜けるために通っている。

まんのう町を通る金毘羅街道

街道名	ルート	概要
阿波街道	徳島県三好市池田町～猪ノ鼻峠～香川県三豊市財田町～樅ノ木峠～琴平町阿波町	古くから多くの人馬が往来し、阿波・土佐と讃岐を結ぶ街道であった。現在、国道 32 号となっている。
阿波街道	徳島県美馬郡つるぎ町貞光～三頭峠～香川県まんのう町川東明神～造田～吉野～琴平町阿波町	金毘羅街道の中でも塩入街道と伴に主要な道である。途中の明神は借耕牛の取引の場として栄え、小さいが宿場町としての様相を呈していた。
阿波街道	貞光～真鈴峠～まんのう町勝浦～明神～造田～吉野～琴平町阿波町	三頭越と伴に往来が多かった。真鈴には四つ足堂と呼ばれる茶堂があり金毘羅参りの人々が足を休めた。四つ足堂は現在も地域住民に守られている。
箸蔵街道	三好市西祖谷山村中尾～池田町西山船原～箸蔵寺～まんのう町山脇～財田町黒川～阿波街道と合流	金毘羅宮へ参拝した人が箸蔵寺へも参拝したことから栄えた街道である。山脇地区が特に険しく難所であった。
塩入街道	樫ノ休場・東山越～まんのう町塩入～堀切峠～岸上～五條～琴平町阿波町	金毘羅参りの他、讃岐から塩を運搬する道でもあり栄えた。近代以降は借耕牛の往来も盛んになった。街道筋には石灯籠が多く残る。

◆　縄文時代

縄文時代の遺跡としては、備中地遺跡より早期の押型文土器が出土している。また、中寺廃寺跡の下層より前期の土器が出土していることから、この頃にはすでに中寺廃寺跡付近の平坦地が利用されていた可能性がある。

◆　弥生時代

弥生時代の遺跡としては、中寺廃寺跡が存在する大川山の麓の平野部分で集落跡が確認されている。また満濃池南辺の大川山寄りの地域でも多くの散布地が確認されていることから、人々の生活が山中での狩猟採集から平地での水稲耕作へと移っていったと考えられる。

主な遺跡として、備中地遺跡より弥生時代後期の遺物が出土している他、河岸段丘の町代遺跡では弥生時代中期後半の集落跡、また、羽間遺跡では弥生時代後期中葉の大型掘立柱建物跡等が検出され、集落跡が確認されている。羽間遺跡と同一の丘陵に所在するまんのう町東佐岡では平型銅剣２口が出土している。この他にも、庵山遺跡では太型蛤刃石斧を採集、吉野下にある秀石遺跡では竈付竪穴住居跡を、買田にある岡下遺跡では掘立柱建物跡、土坑、溝を確認している。満濃池周囲には葦谷遺跡、長谷遺跡、長谷西遺跡、神野岡遺跡、神野岡北遺跡、神野三田遺跡、神野三田南遺跡があり、弥生～中世までの遺物を採集している。

◆　古墳時代

古墳時代の遺跡としては、古墳時代中期～後期の古墳が多数確認されている。古墳が多く分布する地域は、長尾丘陵の南西側(河岸段丘上)、中津山周辺、西山南西側、公文山南側があり、いずれも丘陵の南西斜面、土器川右岸を中心に分布する。これらの地域は北西にかけての展望が良く、当時栄えていたと考えられる現在の善通寺付近の平野まで見渡すことができる。また土器川右岸の古墳群の中で最も上流に位置する吉田神社前１・２号墳では、徳島県吉野川市忌部山古墳群と同じ「忌部山型石室」と呼ばれる石室形態が見られることから、これらの土器川右岸の古墳群を築造した集団と忌部山古墳群を築造した忌部氏との讃岐山脈を越えた繋がりが推測される。箱式石棺を埋葬主体とする古墳としては、富熊神社南古墳、天神七ッ塚7 号墳、神野1 号箱式石棺が確認されている。横穴式石室を持つ古墳としては草塚古墳、安造田東１・２・３号墳、安造田神社裏古墳、安造田神社前古墳、安造田東峠古墳、佐岡１・２号墳、断頭墓地１・２号墳、光明寺池上古墳、椿谷古墳、南泉寺１号墳、北山楠木神社塚古墳、北山墓地１・２号墳、樫林清源寺１・２号墳、樫林山の神古墳、町代１・２号墳、神野古墳が確認されている。この他にも、西山西部１～３号墳、出雲山１～４号墳、天神塚古墳、森本塚古墳、公文山１～６号墳、三堺山１～５号墳、買田峠古墳、葦谷古墳、岡の塚穴古墳、小山古墳、椀貸塚、長谷古墳が確認されている。

◆　古代

この頃、中寺廃寺が隆盛した。中寺廃寺跡では塔跡、仏堂跡、僧房跡など多くの建物跡が確認され、讃岐・阿波国境における山林仏教の拠点として機能していたと考えられる。その他、古代

に建立された寺院遺跡としては、弘安寺廃寺、金剛院経塚、尾背廃寺跡、佐岡寺跡、阿弥陀堂跡、前正善寺跡、円徳寺跡、霊仙寺跡、神野寺等が挙げられる。弘安寺跡からは白鳳～奈良期の十六葉素弁蓮華軒丸瓦が出土している。金剛院経塚からは陶製の外容器、鋳鉄製の経筒、銅鏡一面などの経塚遺物が出土している。古代に建立された神社としては、大川神社、中熊神社、天川神社、梶洲神社、神野（万農池）神社等が挙げられる。天川神社、梶洲神社、神野（万農池）神社は「国史現在社」である。

その他の古代の遺跡としては、空海が修築したとされる満濃池がある。また満濃池の北側、蛇谷の東付近では神野１号窯跡が確認されている。空海については、19 歳の時、四国の霊山を跋渉して苦行を続けたといわれている。

古代における中寺廃寺跡周辺地域の特徴として、平家の落人伝説がある。讃岐山脈の峠に近い集落では源氏、平家の山越、落人の開拓といった伝承が数多く残ることから、それらの伝承の真否の程はともかくとしても集落の立地の険しさを物語る。

◆　中世

中世の遺跡としては多数の山城跡が確認されている。戦国期讃岐屈指の規模を誇る西長尾城跡（長尾城跡、国吉城跡）を初め、種子城跡、常包城跡、城丸城跡（恕の丸砦跡、照井城跡）、大堀城跡、新目城跡、山脇城跡、造田城跡、金丸城跡、大谷川城跡、備中地城跡、中通山城跡、尾ノ瀬山城跡、丸山城跡、仲南藤目城跡等がある。これらの城の多くが讃岐山脈を越えて攻めてきた長宗我部軍によって一掃された。中寺廃寺跡付近の道も含む峠の道や峠の集落では戦闘もあり、軍用道として頻繁な往来があったと考えられる。

集落遺跡としては、木下遺跡において建物跡、溝跡を確認している。

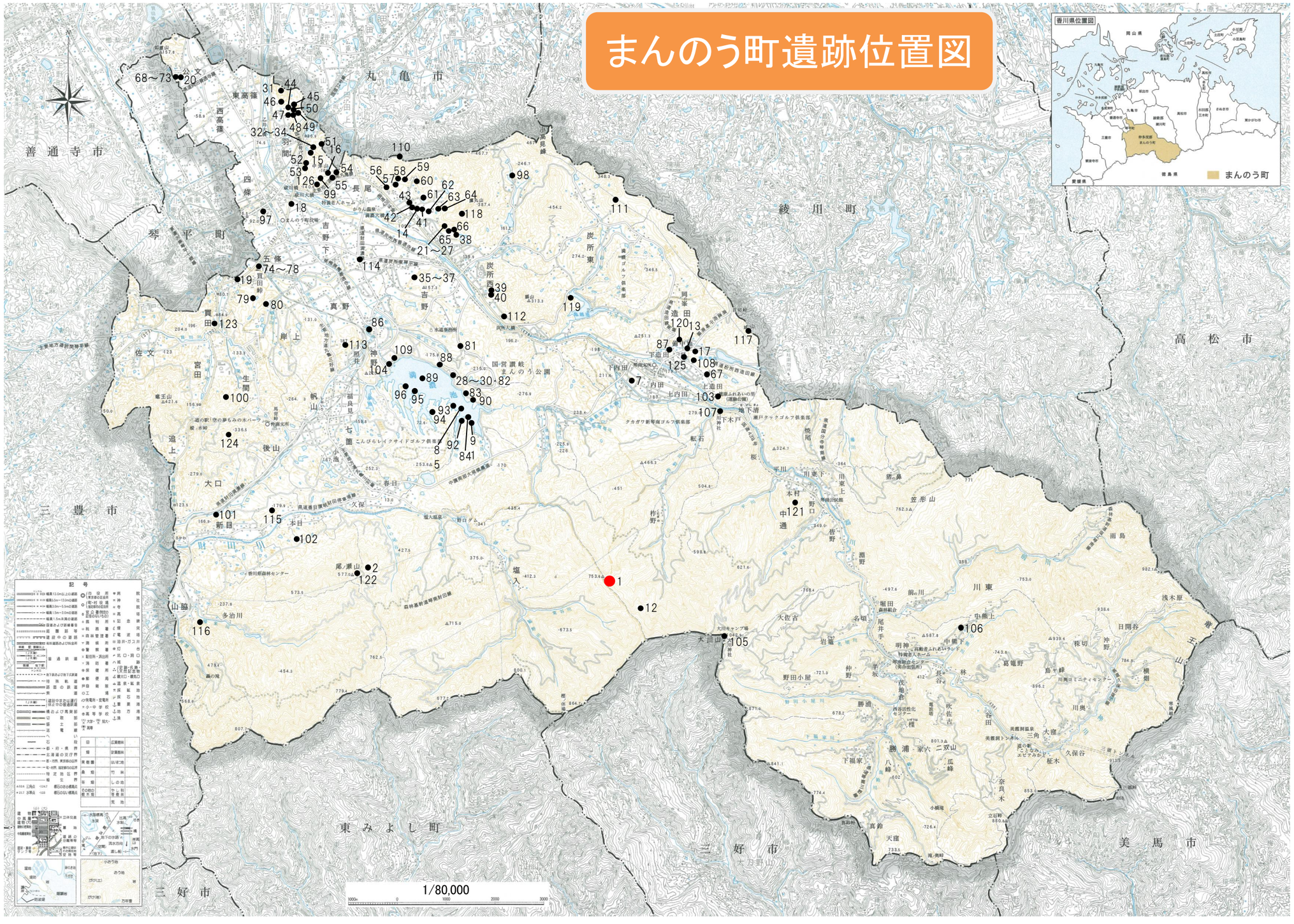
◆　近世

近世に入ると中寺廃寺跡付近を含む国境の山々は高松藩による管理体制が整った。現在まで樹木の切り出しの記録、役人の見回りの記録、藩主の巡視の記録等が残っている。

寛文８(1668)年には高松城下の整備のための建築資材として、塩入山で伐採を行い、土器川に流して下流へと運んだ記録がある。この塩入山の伐採範囲には中寺廃寺跡付近も含まれていたと考えられる。

御林見回り、御境目見回りの役人は、年２回、塩入村から讃岐山脈の尾根沿いを笹ノ多尾、大川神社を経由して東へと進んだ。見回りの前には村々から人足が出て道の点検等、役人を迎える準備があったと考えられる。

天保６(1835)年の藩主松平頼恕の巡視の記録に、御境目見の道筋にあたる中寺廃寺が旧跡として紹介されたことが記されている。このときの巡視では、雪が多い年であったため綿密な準備が進められ、大川神社から笹ノ多尾まで新道が敷かれ、古道も修繕された。国境の道はこういった役人見回り、藩主の巡視等の機会に整備されることにより後世まで利用できる規模もしくは基礎


まんのう町遺跡位置図
香川県位置図
まんのう町
善通寺市
丸亀市
琴平町
綾川町
高松市
三豊市
東みよし町
三好市
美馬市
1/80,000

まんのう町遺跡一覧

番号	遺跡名	種別	時代	墳型	番号	遺跡名	種別	時代	墳型	番号	遺跡名	種別	時代	墳型
1	中寺廃寺跡	寺院	古代	—	49	出雲山3号墳	古墳	古墳	不明	89	満濃池	散布地	古代	—
2	尾背廃寺跡	寺院	中世	—	50	出雲山4号墳	古墳	古墳	不明	90	葦谷遺跡	散布地	弥生～奈良	—
7	称名寺	寺院	中世～現代	—	51	安造田東峠古墳	古墳	古墳	円墳	91	長谷遺跡	集落跡	弥生～中世	—
12	桜の窪遺跡	散布地	中世～近世	—	52	安造田神社裏古墳	古墳	古墳	円墳	92	長谷西遺跡	集落跡	弥生～奈良	—
13	備中地遺跡	包含地	縄文～弥生	—	53	安造田神社前古墳	古墳	古墳	不明	93	神野岡遺跡	集落跡	弥生～室町	—
14	町代遺跡	集落跡	弥生～中世	—	54	佐岡1号墳	古墳	古墳	不明	94	神野岡北遺跡	集落跡	奈良～平安	—
15	羽間遺跡	集落跡	弥生～中世	—	55	佐岡2号墳	古墳	古墳	不明	95	神野三田南遺跡	集落跡	平安	—
16	佐岡遺跡(平形銅剣出土地)	包含地	弥生	—	56	下王地古墳	古墳	古墳	不明	96	神野三田遺跡	集落跡	弥生～鎌倉	—
17	庵山遺跡	散布地	弥生	—	57	断頭墓地1号墳	古墳	古墳	円墳	97	弘安寺廃寺	寺院	古代	—
18	吉野下秀石遺跡	集落跡	弥生～中世	—	58	断頭墓地2号墳	古墳	古墳	円墳	98	金剛院経塚	経塚	古代	—
19	買田岡下遺跡	集落跡	古墳～中世	—	59	光明寺池上古墳	古墳	古墳	円墳	99	佐岡寺跡	寺院	古代	—
20	富熊神社南古墳	古墳	古墳	円墳	60	天神塚古墳	古墳	古墳	不明	100	阿弥陀堂跡	寺院	中世	—
21	天神七ッ塚1号墳	古墳	古墳	円墳	61	浦山古墳	古墳	古墳	不明	101	前正善寺跡	寺院	中世	—
22	天神七ッ塚2号墳	古墳	古墳	円墳	62	北山楠神社塚古墳	古墳	古墳	円墳	102	円徳寺跡	寺院	中世	—
23	天神七ッ塚3号墳	古墳	古墳	円墳	63	北山墓地1号墳	古墳	古墳	円墳	103	霊仙寺跡	寺院	中世	—
24	天神七ッ塚4号墳	古墳	古墳	円墳	64	北山墓地2号墳	古墳	古墳	円墳	104	神野寺	寺院	古代～中世・現代	—
25	天神七ッ塚5号墳	古墳	古墳	前方後円墳	65	樫林清源寺1号墳	古墳	古墳	円墳	105	大川神社	寺院	古代～現代	—
26	天神七ッ塚6号墳	古墳	古墳	円墳	66	樫林清源寺2号墳	古墳	古墳	不明	106	山熊神社	寺院	古代～現代	—
27	天神七ッ塚7号墳	古墳	古墳	円墳	67	森本塚古墳	古墳	古墳	不明	107	天川神社	神社	古代～現代	—
28	神野1号箱式石棺	古墳	古墳	箱式石棺	68	公文山1号墳	古墳	古墳	—	108	梶洲神社	神社	古代～現代	—
29	神野2号箱式石棺	古墳	古墳	箱式石棺	69	公文山2号墳	古墳	古墳	—	109	神野神社(万農池神社)	神社	古代～現代	—
30	神野3号箱式石棺	古墳	古墳	箱式石棺	70	公文山3号墳	古墳	古墳	—	110	西長尾城跡(国吉城跡)	山城	中世	—
31	草塚古墳	古墳	古墳	円墳	71	公文山4号墳	古墳	古墳	—	111	種子城跡	城館	中世	—
32	安造田東1号墳	古墳	古墳	円墳	72	公文山5号墳	古墳	古墳	—	112	常包城跡	城館	中世	—
33	安造田東2号墳	古墳	古墳	円墳	73	公文山6号墳	古墳	古墳	—	113	城丸城跡(恕の丸砦跡、照井城跡)	城館	中世	—
34	安造田東3号墳	古墳	古墳	円墳	74	三堺山1号墳	古墳	古墳	不明	114	大堀城跡	山城	中世	—
35	南泉寺1号墳(黄金山古墳)	古墳	古墳	円墳	75	三堺山2号墳	古墳	古墳	不明	115	新目城跡	山城	中世	—
36	南泉寺2号墳(黄金山古墳)	古墳	古墳	不明	76	三堺山3号墳	古墳	古墳	不明	116	山脇城跡	山城	中世	—
37	南泉寺3号墳(黄金山古墳)	古墳	古墳	不明	77	三堺山4号墳	古墳	古墳	不明	117	造田城跡	山城	中世	—
38	樫林山の神古墳	古墳	古墳	円墳	78	三堺山5号墳	古墳	古墳	不明	118	金丸城跡	山城	中世	—
39	吉田神社前1号墳	古墳	古墳	円墳	79	買田峠古墳	古墳	古墳	不明	119	大谷川城跡	山城	中世	—
40	吉田神社前2号墳	古墳	古墳	不明	80	椿谷古墳	古墳	古墳	円墳	120	備中地城跡	城館	中世	—
41	町代1号墳	古墳	古墳	不明	81	龍頭龍王古墳	古墳	古墳	円墳	121	中通山城跡	山城	中世	—
42	町代2号墳	古墳	古墳	円墳	82	神野古墳	古墳	古墳	不明	122	尾ノ瀬山城跡	山城	中世	—
43	町代3号墳	古墳	古墳	円墳	83	葦谷古墳	古墳	古墳	不明	123	丸山城跡	山城	中世	—
44	西山西部1号墳	古墳	古墳	円墳	84	長谷古墳	古墳	古墳	不明	124	仲南藤目城跡	山城	中世	—
45	西山西部2号墳	古墳	古墳	円墳	85	岡の塚穴古墳	古墳	古墳	円墳	125	木下遺跡	集落跡	中世～近世	—
46	西山西部3号墳	古墳	古墳	円墳	86	小山古墳(矢原)	古墳	古墳	円墳	126	長尾大隅守一族の墓	墓	中世	—
47	出雲山1号墳	古墳	古墳	不明	87	椀貸塚	古墳	古墳	—					
48	出雲山2号墳	古墳	古墳	不明	88	神野1号窯跡	生産遺構	古墳終末期～奈良	—					

になっていったと考えられる。そこから中寺廃寺跡付近にも往来があり、中寺廃寺の存在が伝承されたと推測される。

◆　近代

山間部では明治に入ると山林の所有が明確になり自由に伐採ができるようになったことから木炭の生産が盛んになった。中寺廃寺跡付近でも広葉樹林が広がり炭焼きが盛んに行われていた。昭和 20 年頃には、第二次世界大戦による国内の燃料資源不足からバスも木炭で走るといった状況となり、国策として木炭を増産したことで最盛期を迎えた。しかし、昭和 30 年頃から化石燃料が広く普及するようになり、それとともに木炭は斜陽の一途を辿り、現在では生産自体行われていない。

中寺廃寺跡付近には当時の炭焼き窯跡が多数点在している。特に中寺廃寺跡登山道の柞野道沿いに残る炭窯は保存状態が良く、当時の炭焼き文化を偲ぶことができる貴重な資料となっている。

② 中寺廃寺と古代山林寺院との関係

◆　県内の古代山林寺院

香川県内に所在する古代山林寺院跡としては、まんのう町の尾背廃寺跡、高松市の千間堂跡、中山廃寺跡、坂出市の横山廃寺跡が挙げられる。

尾背廃寺跡は標高 470～520mに立地しており、礎石建物跡、列石、石垣、集石遺構を確認している。白磁四耳壺、八葉複弁蓮華文軒丸瓦、巴文軒丸瓦、均整唐草文軒平瓦、平瓦、丸瓦、須恵器、土師器、青磁碗、鉄釘が出土している。

千間堂跡は標高 285mに立地しており、礎石建物跡、掘立柱建物跡、集石遺構、基壇を確認している。須恵器多口瓶、灰釉陶器、緑釉陶器、平瓦が出土している。

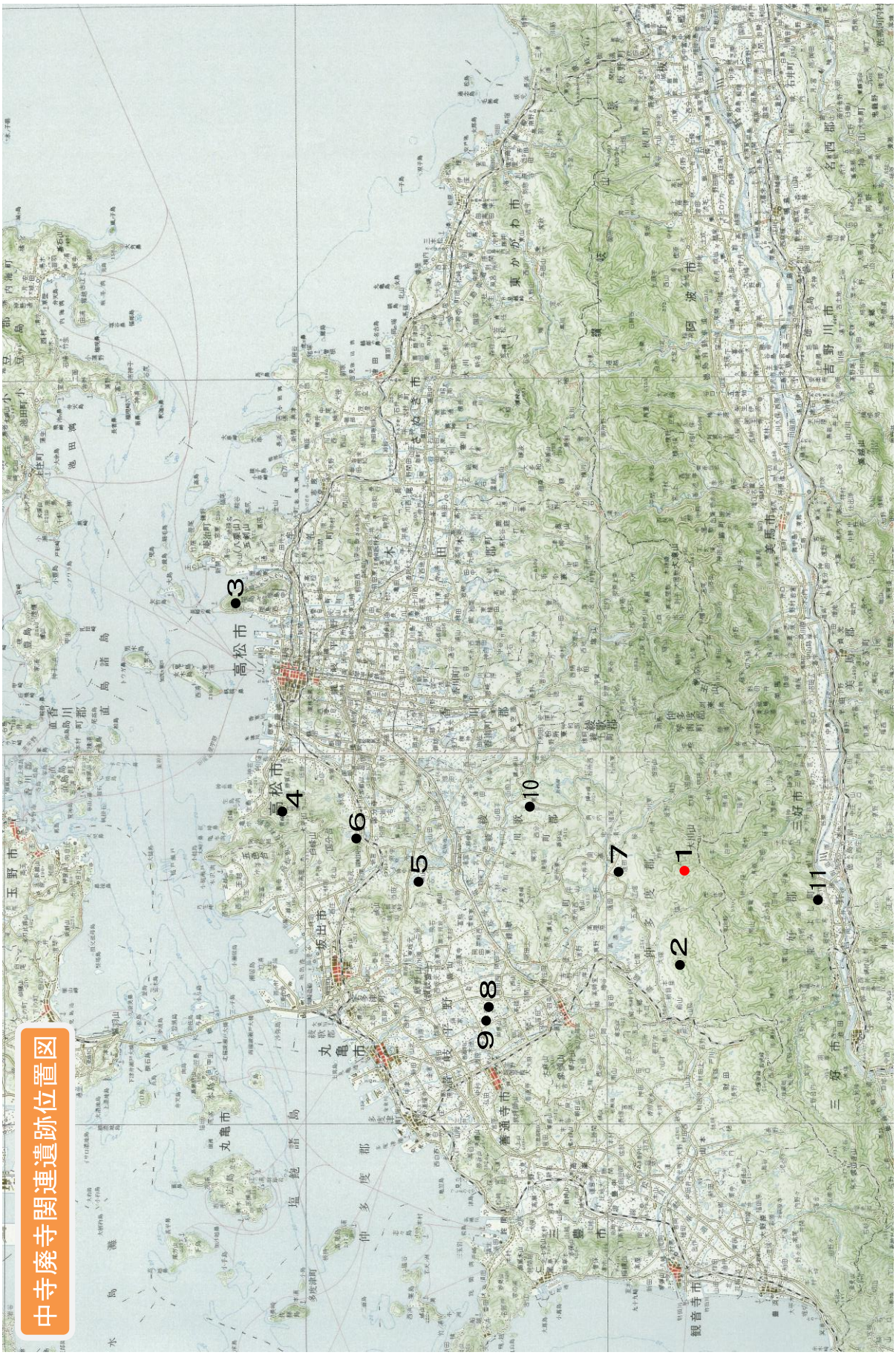
中山廃寺は標高 355mに立地しており、礎石建物跡を確認している。七葉単弁蓮華文軒丸瓦、丸瓦、平瓦、鉄釘が出土している。

横山廃寺跡は標高 242mに立地しており、石室、基壇、井戸跡を確認している。巴文軒丸瓦、巴文軒平瓦、均整唐草文軒丸瓦、連珠文軒平瓦、丸瓦、平瓦、緑釉陶器、須恵器、土師器が出土している。

◆　中寺廃寺を起源とする寺院

まんのう町の称名寺（浄土真宗本願寺派）、丸亀市の浄楽寺（浄土真宗本願寺派）、願誓寺（浄土真宗本願寺派）、綾川町の永覚寺（真宗大谷派）、徳島県三好郡東みよし町の教法寺（浄土真宗本願寺派）は、中寺廃寺を起源とする寺院であるとの伝承が残っている。

称名寺は、伝承によると、大川山の中寺の一坊としてまんのう町造田の柞野にある松地谷（＝末寺谷）にあったが、まんのう町造田の西性寺に移り、その後、同じまんのう町造田の現在地に移ったという。浄楽寺は、現在、まんのう町塩入に門徒が三十数軒あり、地元の伝承によると、


中寺廃寺関連遺跡位置図
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
高松市
坂出市
丸亀市
善通寺市
三豊市
観音寺市
三好市
美馬市
阿波市
吉野川市
東かがわ市
さぬき市
木田郡
香川郡
直香川郡
三野市
丸亀市
塩飽島
仲多度郡
多度津町
岐平野
大川郡
仲多度郡
三好郡
名西郡
阿波郡
吉野川市
美馬郡
三好市

中寺廃寺跡関連遺跡一覧					
番号	遺跡名	種別	時代	所在地	備考
1	中寺廃寺跡	寺院	古代	香川県仲多度郡まんのう町造田	
2	尾背廃寺跡	寺院	中世	香川県仲多度郡まんのう町七箇	
3	千間堂跡	寺院	古代	香川県高松市屋島西町	
4	中山廃寺	寺院	古代	香川県高松市中山町	
5	横山廃寺	寺院	古代～中世	香川県坂出市府中町	
6	国分寺	寺院	古代～現代	香川県高松市国分寺町国分	
7	称名寺	寺院	中世～現代	香川県仲多度郡まんのう町造田	まんのう町造田柞野松地谷→現在地
8	浄楽寺	寺院	中世～現代	香川県丸亀市垂水町	中寺→まんのう町塩入→現在地
9	願誓寺	寺院	中世～現代	香川県丸亀市垂水町	中寺→まんのう町江畑→現在地
10	永覚寺	寺院	中世～現代	香川県綾歌郡綾川町東分	まんのう町中通皆野→現在地
11	教法寺	寺院	中世～現代	徳島県三好郡東みよし町足代	中寺→徳島県三好市三野町太刀野山大平→現在地

元々は中寺にあったという。

願誓寺は、現在、まんのう町炭所西の江畑に門徒が十数軒あり、地元の伝承によると、元々は中寺にあったという。

永覚寺は「永覚寺縁起」に、大和の法蔵寺にいた空円という大徳が衆生利益のため諸国を遊歴した折、ここに留まって讃岐国鵜足郡大川宮に務めていた、と記されている。その後、永覚寺は綾川町東分に移り、跡地には岡ん堂と呼ばれる庵が建てられたが現在は廃庵となっている。

教法寺は中寺にあったが、徳島県三好市三野町太刀野山大平の庵に移り、その後、徳島県三好郡東みよし町足代に移ったといわれている。